

貸出資料
婦人関係資料シリーズ
調査資料NO. 34

勤労者家庭の消費生活水準と主婦の意識

— 昭和37年調査結果報告書 —

1963年

労働省婦人少年局

は し が き

労働省婦人少年局では、かねて労働者家族福祉の見地から、労働者家族問題の所在と福祉対策についての研究をすすめておりますが、その一つとして勤労者家族の消費生活水準についての基礎資料を得るため基本調査を計画、実施いたしました。この調査は勤労者家庭の消費生活において生活の基本的部分がどのように充足されているかを明らかにするとともに、勤労者家庭の主婦が消費生活に関してどの程度の水準を最低必要なものとして意識しているかを把握しようとしたものです。この調査の結果が労働者家族福祉問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸いです。

この調査の実施にあたって各調査対象事業所並びに対象者の方々の多大の御協力を得ましたことを深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

1963年10月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き

調査の概要	1
調査結果の要約	3
調査結果	10
I 家 計	10
1. 夫の勤労収入	10
2. 夫の勤労収入以外の収入源泉	11
3. 妻の就業	12
4. 世帯の総収入	14
5. 家計についての充足感	16
6. とくに荷が重いと感ずる支出項目	19
7. もつと金をかけたいと強く感ずる支出項目	21
8. 夏季手当のおもな使途	22
9. むこう1年間にみこまれるかなり大きな出費とそのまかないかた	23
10. 貯蓄とその種類、目的	24
11. 定年後の生活設計	26
II 食生活	28
1. 肉・卵	28
2. 牛乳(月ぎめ)	29
3. 食べたい食品	29
4. 外 食	30
5. 間 食	31
6. 飲 酒	31
III 衣生活	32
1. 通勤服	32
2. ラインヤツ	34

IV 住 宅	36
1. 住宅の種類	36
2. 設 備	37
3. ぐあいのわるい個処	37
4. 子ども部屋	38
5. としよりの部屋	39
6. 充足状況と不備カ点	39
7. 建築、転居等の計画	41
8. 周囲の緑	41
9. 深夜勤務のある労働者の睡眠	42
V 耐久消費財	43
VI 保 健	44
1. 家族の健康	44
2. 入 浴	44
3. 保健所の利用	44
4. 害虫、じん芥	45
5. 家族計画	45
VII 育児、教育	46
1. 子どもの在学状況	46
2. 教育費	47
3. 進学希望	49
4. 子どもの遊び場とその安全	49
VIII 文化、教養	50
1. 新 聞	50
2. 雑 誌	51
3. けいと事	51
4. 家族いっしょに楽しむレクリエーション	53
5. 娯楽用具	54
6. 文化、レクリエーション施設の利用	55
7. 家庭での交際	56

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

経済の発展にともない、勤労者家庭の生活水準は一般に高まってきたが、生活水準が実質的に向上するためには、消費生活の内容が家族生活の主要な機能を十分に発揮できるように配慮されることが必要である。

この調査は、勤労者家庭の消費生活において、生活の基本的部分がどのように充足されているかをあきらかにするとともに、勤労者家庭の主婦が消費生活に関して、どの程度の水準を最低必要なものとして意識しているかを把握し、消費生活向上施策の基礎資料とする。

2. 調査対象者

製造業、規模30人以上200事業所に働く常用男子労働者の妻 3,000人

但し回収数 2,642人

大規模(500人以上) 20人×50事業所
中 ・ (100~499人) 20人×50事業所
小 ・ (30~99人) 10人×100事業所

3. 調査対象者の抽出

事業所の抽出は昭和35年事業所統計調査の事業所名簿にもとずき、事業所の規模による層別無作為抽出

世帯の抽出は、事業所備付の労働者名簿から、有配偶の常用男子労働者を無作為抽出し、その妻を対象者とした。

4. 調査の方法

調査対象者の記入による

5. 調査期日

昭和37年8月

6. 調査項目

家計、衣食住、耐久消費財、保健、育児、教育、文化、教養

7. 調査対象世帯の特性

(1) 事業所規模別、職種別世帯数

回収された調査対象世帯を事業所規模別、職種別にみると次のとおりである。

	計	生産労働者	事務・管理・技術労働者
計	2642(100%)	1697(64%)	945(36%)
大規模(500人以上)	977(37%)	569	408
中規模(100~499人)	899(34%)	582	312
小規模(30~99人)	766(29%)	546	200

参考までに同年同月の毎月勤労統計調査による常用男子労働者の構成は、事業所規模500人以上4.3%、100~499人3.2%、30~99人2.5%、また生産労働者は7.3%、事務、管理、技術労働者は2.7%であるので、本調査は小規模、事務、管理、技術労働者にやや偏っているが、本調査の対象は既婚男子労働者の世帯に限つてあるので、直接比較はできない。

(2) 家族構成

調査対象世帯の世帯人数別構成は次のとおりである。

	総 数		2人	3人	4人	5人以上	不明
	実数	%					
計	2642	100	4.2%	2.2%	2.6%	3.9%	1%
大規模	977	100	1.1	2.2	2.7	3.9	0
中規模	899	100	1.2	2.0	2.7	4.0	1
小規模	766	100	1.2	2.4	2.5	3.7	2

これを昭和36年の家計調査による全都市、勤労者世帯のそれと比べてみると、家計調査では2人家族1.1%、3人家族2.1%、4人家族2.9%、5人以上3.9%で、本調査と大差ない。

昭和35年国勢調査による全国平均(単身世帯等を除く親族世帯)では、5人以上家族の割合は4.9%である。

基本世帯(夫婦と子ども)は7.3%で、国勢調査による全国平均(単身世帯等を除く親族世帯)の6.7%に比べ、本調査の勤労者世帯は近代的小家族の特徴をもつ。

子どものある世帯は8.5%(うち学令以前の子どものある世帯4.5%、学令以上の子どもだけある世帯4.0%)、子どものない世帯は1.5%である。

調 査 結 果 要 約

1. 家族構成

全国平均に比べ近代的小家族の特徴をもち、規模別の差はとくにみられない。

基本家族(夫婦と子ども) 7.3%(単身世帯等を除く全国平均6.7%)

世帯人員 4人以内が6割(単身世帯を除く全国平均5割)

2. 家 計

収 入 夫の賃金(ボーナスを含む税込月額)は世帯の9割が1~5万円の間に分布し、中位の階級は2.5~3万円である。

規模別に相当の格差がみられる。

	2万円未満	2~3万円	3万円以上
計	2.3%	3.6%	3.9%
大	7%	3.3	5.8
中	3.8	3.7	3.2
小	3.9	3.7	2.1

夫の賃金以外の収入のある世帯は5.3%、ない世帯4.7%で、他の収入のある世帯は小規模、夫の収入の低い層ほど多い。(大4.6%、小6.1%、2万円未満6.6%、5万円以上3.5%)。他の収入のおもな源泉は家族員の勤労収入である。夫の賃金、その他の収入をあわせた世帯収入の中位階級は3~3.5万円(大3.5~4万円、中3~3.5万円、小2.75~3万円)となっている。

妻の就業 就業して収入を得ている妻は3.9%、就業形態は雇用(1.6%)、内職(1.5%)、自営(7%)である。

内職が各層にかなり平均的に行われているのに対して、雇用は小規模、夫の収入の低い層ほど高率である。

妻の雇用率	大	1.1%	{	夫の収入	2万円未満	3.0%
	中	1.7		"	5万円未満	2
	小	2.1				

学令前の幼児をもつ母親の雇用率は上記1.6%より低い(1.1%)。夫の賃金の低い層では学令前の幼児をもつ母親の雇用率がかなり高い。(大の賃金2万円未満の層2.2%)

就業していない妻の1/4(妻全体の16%)は働いて収入を得たいと思っており、その半分(妻全体の7%)が仕事を探している。

家計についての充足感 全体的にはどうにかまにあっていると感ずるものが多く5.2%をしめ、不足と感ずるものは40%、十分と感ずるもの7%である。小規模ほど不充足感もつものが多い。(大35% 中41% 小46%)

家族数別に世帯収入(夫の賃金及び、その他の収入の合計)と充足感との関係をみると、下記のような特徴がみられる。

① 不充足感の強い層

充足感には主観的な個人差があると思われるが世帯の過半数が不充足感をもつようになるのは、2人家族では20000円、3人家族で22500円、4人家族で25000円、5人以上家族で30000円で、さらに収入が低減するにつれて、不充足世帯の比率はほとんど100%まで急カーブに上昇する。上記金額以下の収入階層に入る世帯は全体の26%である。

(大41% 中27% 小39%)

② 充足感が強い層

十分と感ずるものが過半数になるのは2~3人家族の7万円以上だけである。しかし2~3人家族では5万円、4人家族では6万円程度をこえと、不充足感をもつものは僅かなり、充足感をもつものが顕著に増大する。5人以上家族では、7万円以上になつても不充足感をもつものが18%あるが、充足感をもつものが29%と上廻るようになる。この線以上の収入階層に入る世帯は全体の7%で大規模のほうに多い。

不充足世帯が「せめてもう少しあつたら」と希望する金額としては世帯の9割までが25000円~35000円の間にも広く分布しているが、35000~75000円が過半数をしめる。

荷が重いと感ずる支出項目 家計のバランスの上からみて、とくに負担が重いと感ずっている支出項目としては、家賃、交際費、月賦支払をあげるものが多く、ついで教育費、医療費、保険掛金となっている。小家族では家賃、大家族では教育費をあげるものが多い。現在の支出金額と、「せめてこの程度であつてほしい」と思う希望金額について集中度の高い金額を示すこと

	現 在	せ め て
家 賃	1,500~7,500円	1,000~3,500円
交 際 費	~ 3,500	~2,500
月 賦	1,500~7,500	~3,500
教 育 費	1,500~7,500	1,000~3,500

もつと金をかけたい項目 消費生活の内容をたかめるため、もつと金をかけたいと感ずっている項目としては被服費、食費、教養娯楽費をあげるものが多く、ついで美容衛生費、家具什器費、教育費となっている。大規模では中、小と比べ教養娯楽費が高率であるほか、一体に要求水準が高い。

	現 在	せ め て
被 服 費	1,000~3,500円	1,500~7,500円
食 費	7,500~25,000	10,000~30,000
教養娯楽費	500~2,500	1,000~3,500

夏季手当の使途 おもな使途は毎月の生活のたしなえにする、貯金する、借金月賦の返済、耐久消費財購入、衣料新調などで、中小規模では生活費補てん、大規模では貯蓄、耐久消費財の購入、衣類新調が多い。

貯 蓄 なんらかの貯蓄のある世帯84%、貯蓄のない世帯は16%で、小規模で「ないもの」がやや多い(大11% 中15% 小23%)。貯蓄の形体としては大部分が保険及び預金で、株、債券等は低率である。貯蓄のおもな目的は老後のそなえ(保険が多い)教育資金、住宅資金、結婚資金の順であるが、不時のそなえ、生活費補てん、利殖等の目的もかねてもたれているとみられよう。

とまつた出費 ひとつ1年間にかなりまとまつた出費をみこんでいる世帯は約半分でおもな使途は入学、増改新築、出産、結婚、土地購入の順となつている。これら出費のまかない方としては貯蓄等でそなえているもの(計画性ありとみなされるもの)が半数で、1割が金をかりる見込みをもち(うち公的金融にたよるもの1/4)、3割が家計ぎりつめを考へ、1割はあてがなくて困つている。

定年後の生活設計 夫の定年の有無、何才かを知らない妻は17%で、小規模に極めて多い。

定年後の生活費のまかない方については、そこまですでに考えていないと答えたものが4割である。(定年までにあと15年以上の世帯では46%、あと5年以内では17%)

まかない方としては夫が職について収入を得るといふ答がもつとも多く、ついで退職金・年金でまかなう、貯金保険でまかなう、子どもの世話になる。の順になつている。「どうしてよいかわからない」と答えているものが7%ある。比較的若い層では退職金、年金、貯蓄でまかなうと考えるものが多く、定年間近い層では、夫が職につく、子どもの世話になる、どうしてよいかわからないと答えるものの割合がふえている。大規模では退職金、年金、貯蓄をたよるという傾向がづよいのに対して、小規模ほど子どもの世話になる、どうしてよいかわからないと答えるものが多い。

3. 食生活

9 動物性蛋白質中肉の摂取量は1人1週間あたり300g以内の世帯が8割で、中位は100～200gである。卵の摂取量は1人1週間あたり6コ以内が8割で、4コが中位を占め、牛乳を月ぎめでとっている世帯は57%（1本、26%、2本、20%、3本以上、11%）で大規模が高率である。のむ人は子どもが主で、夫、妻の順である。過半数（55%）の世帯が間食の習慣をもち、1/3の世帯が3時の間食を、1/5の世帯が夜食の習慣をもっている。家庭で酒をよくのむ習慣のある世帯は1/4である。（毎日14%、毎日ではないがよくのむ11%）

もつとふやしたい食品としては肉、果物への要求が強く、それぞれ60%の世帯が増加を希望している。大規模では果物、中小規模では肉を望むものが多い。肉、果物について牛乳、乳製品、野菜、卵、魚の順になつており、菓子、酒は低率である。大規模で牛乳を、小規模は魚、野菜をのぞむ傾向がみられる。

4. 衣生活

通勤服（セビロその他ふだん通勤に用いる服）の保有数は、生産労働者の9割が6着以内で中位は3着、職員等の9割が8着以内で中位は5着となつている。持数が足りないのでもつとふやしたいと感じている世帯は生産労働者の5割、職員等の4割で、のこりの大多数は何とかまにあうと感じている。持数と充足感との関係を見ると、3着以下になると過半数が不足を感じるようになり、8着になると十分と感ずるものの方が不足と感ずるものを上回る。

ワイシャツの保有数は生産労働者の9割が7枚以内で中位は5枚、職員等の9割が10枚以内で中位は6枚である。ワイシャツの保有数について、不充足感をもつものは生産労働者世帯の4割、職員等世帯の2割強で、のこりの大半はなんとかまにあうと感じている。3枚以下になると過半数が不足を感じるようになり、十分と感ずるものが不足と感ずるものを上回るのは6枚である。

5. 住宅

住宅の現状 居住する住宅の種類は持家が多く49%、ついで民営借家24%、社宅22%、公営住宅5%となつている。民営借家には借間ずまいの世帯8%がふくまれる。

大規模事業所では社宅居住者が多い。（大30%、小14%）

住宅の設備として、水道のある家は87%、（共同水道15%をふくむ）ガス55%、（共同1%）風呂52%、水洗便所9%となつている。水道、ガスは全国平均の1/2、1/4に比べ普及率ははるかに高い。水道、ガス、水洗便所は公営住宅、社宅に多く、風呂は持家に多い。民営借家は、借間をのぞいても、一体に設備がとおり、とくに風呂のある家は

少ない。（28%）

10才以上の子どものいる家庭で子どもの部屋のある世帯は約半分で、大部分は子ども同志の共同の部屋である。としよりのいる世帯のうちとしよりの部屋のある世帯は4割強である。子ども部屋、としよりの部屋とも持家に多い。

家のまわりに目をなぐさめる樹木、草花等が豊富にある世帯は1/4、少しはある世帯が半数、ほとんどないものは2割である。民営借家、借間では緑の乏しい環境に住むものの割合が他種の住宅より遙かに多い。

夫の深夜勤務のある世帯が27%あるが、そのうち夜勤あけに安眠できないと答えたものが6割近くある。理由は外部の音がうるさい、子どもがさわぐ、静態がないの順になつて

住宅についての充足感 家の構造に「満足している」と答えたものは8%、「まあまあ満足」が35%、「不満足」が56%で、住居についての不満率はかなり高い。不満の最大の理由はせまいことで不満な世帯の8割がこれをあげている。せまいという不満は大家族、民営借家（間）に多い。

住宅の設備については満足と答えたものが8%、まあまあ満足が42%、不満足が41%である。理由を不満度の強い順にあげると、水道がないこと（ない世帯の93%）、風呂がないこと（ない世帯の42%）、ガスがないこと（ない世帯の34%）、便所が水洗式でないこと（ない世帯の22%）となつて

6. 耐久消費財

保有率の高い品目はテレビ、マシン、自転車、ラジオ（以上8割前後）電気釜、洗濯機、扇風機、カセット（6～5割）で、電話保有率（6%）がかなり低いほかは全国都市平均とあまり違う傾向はみられない。

規模別には大規模の保有率がかなり高い。

（例）	大	小	（規模別差がないもの）	自転車
洗濯機	72%	48%		マシン
電気冷蔵庫	40	23		ラジオ
テレビ	86	75		電話

もっているがあまり利用価値がないと答えた世帯の多かつた品目は、ミキサー、ジューサー、ブレンダー、天火、ラジオ、トースター、ステレオ（保有世帯の5～2割）である。

利用価値が高いと感ぜられている品目は電話、冷蔵庫、自転車、テレビ、洗濯機等である。

月賦購入率はテレビが5割弱でもつとも高く、その他は4割とまりである。未保有世帯で要求度が比較的高く、今購入計画のある品目としてはテレビ(持っていない世帯の28%)洗濯機(持っていない世帯数の27%)、冷蔵庫(持っていない世帯の23%)、扇風機、ミシン(持っていない世帯の17%)である。

7. 保 健

入浴(主婦の8月について)は大部分が毎日、または1日おきに入浴している。毎日入浴するものは自家用風呂のある世帯に多い。(風呂あり72%, ない51%)健康診断、予防接種等のため保健所を利用するものは3割程度である。害虫駆除にはほとんどの世帯が薬剤を使つて駆除を行なっている。

適当と思う子どもの数は3人又は2人が圧倒的に多く、中小規模は大規模に比べて3人へのかたよりがやや大きい。50才未満の婦人で家族計画を行なっているものは6割強で、小規模ではやや低い。

8. 育児、教育

学校・教育費 公立、私立別にみると、大学生の5.8%、高校生の2.9%、中学生の7%、小学生の3%、幼稚園児の5.7%が私立校に在学している。全国平均と比べて大学はやや低く、高校は平均なみ、中小学校はやや高い。大規模ほど大学、高校の私立在学者が多い。

学校教育費(授業料、給食費、交通費、教科書、参考書、文具代)について、学校別に中位の支出金額(1人あたり月額)をみると大学では、7,000~10,000円、高校では、5,000~4,000円、中学、小学校、幼稚園は1,000~2,000円となつている。私立は公立よりも一律に高い。

学習塾、けいこ事、家庭教師等家庭教育費をかけている子どもは在学者の3割で、1人あたり月額は大部分が2,000円未満で500~1,000円が中位を占めている。

進学希望 男の子に対しては5割以上が大学まで、2割が高校までやりたいと思つている。女の子に対しては5割以上が高校まで、2割が大学または短大までやりたいと思つている。男の子を大学へやりたい希望は現在の大学進学率からみて非常につよいといえよう。職員階、大規模ほど子どもに高い教育をのぞむ傾向が強いが、希望程度のもつとも低い小規模、生産労働者世帯でも1/5が男の子を大学までやりたいと思つている。

子どもの遊び場所 10才以下の子どものおもな遊び場所としては、家の庭、あき地、道路、公園又は遊園地、校庭、の順になつている。親の目からみて安全でないと言えた遊び場が全体として3.5%であるが、道路については安全でないという答が6.4%と高い。

9. 文化、教養

新聞をとつている世帯は9.4%(大9.8%, 中9.4%, 小8.9%)、家庭購入の雑誌のある世帯は8.0%(大8.6%, 中8.3%, 小6.9%)である。雑誌の種類としては子ども雑誌、婦人雑誌、週刊誌を買う世帯がそれぞれ4割、総合、文化、趣味等の雑誌はそれぞれ1割程度である。

家族のだれかがけいこ事をならつている世帯は1/4で、子供が圧倒的に多い。妻や夫がけいこ事をしてる世帯は大規模のほうに多い。

家族がいつしよにゲーム、スポーツ等楽しむことのある世帯は1/4、家族ずれてレクリエーションに出かけることのある世帯は6割を占め、いずれも大規模ほど多くなつている。

家庭にある娯楽用具としては、トランプ、釣具、将棋(以上世帯の5割前後)、ボール、バドミントン、野球具(以上3~4割)、が多く、規模別にはそれほどの差はみられない。

過去1年間に主婦が利用した施設としては公園、講習会(それぞれ主婦の約3割)、展覧会、婦人学級、貸本(2割前後)、図書館、サークル、スポーツ施設(5%前後)となつている。手近にぜひほしい施設について回答したものは低率(1.5%)であるが、回答者のうちでは図書館がとくに多く、ついで公園、集会場、音楽会、スポーツ施設等があげられている。

家庭に友人、知人を招いて会などすることのある家は約半分で大規模ほど多い。大部分はときどき又はごくたまにしている。する人は夫が多い。

調 査 結 果

I 家 計

1. 夫の勤労収入

1表 夫の賃金階級別世帯分布

	総 数		1万円未満	1～2万円	2～3万円	3～4万円	4～5万円	5万円以上	不 明
	実 数	%							
計	2642	100	6 %	23 %	36 %	22 %	11 %	6 %	2 %
大	977	100	—	7	33	31	17	10	1
中	899	100	1	27	37	18	8	6	3
小	766	100	1	38	37	14	5	2	3

注： 0は0.5%未満、—は該当数がないことを示す。

夫が勤務先から得る月収（きまつて支給する給与で賞与は含まれない）を収入階級別にみると、1万円未満はわずか、1～2万円23%、2～3万円36%、3～4万円22%、4～5万円11%、5万円以上は6%となっている。中位の階級は2.5～3万円である。

事業所規模による収入階級分布差はかなり顕著で、小規模では2万円未満の世帯が39%をしめているのに対して、大規模では7%にすぎず、3万円以上の世帯は小規模で21%、大規模では58%となっている。

なお参考までに、毎月勤労統計調査による同年同月の規模30人以上製造業事業所に働く男子常用労働者の平均給与額（きまつて支給する給与）は26,920円である。また昭和37年4月の特定条件賃金調査による製造業男子常用労働者の賃金階級分布（きまつて支給する給与）は、1万円未満6%、1～2万円38%、2～3万円29%、3～4万円16%、4～5万円7%、5万円以上4%であるから、本調査ではこれに比べてかなり上層に分布しているが、これは本調査は調査対象を規模30人以上事業所の既婚男子世帯としたので、零細規模事業所、若年層が除かれたためである。

2. 夫の賃金以外の収入源泉

2表 夫の賃金以外の収入源泉の有無及びその種類

	総 数		他の収入なし	他の収入あり	他 の 収 入 の 種 類				
	実 数	%			夫以外の家族の勤労収入	自営内職収入	不動産収入	仕送り	その他
計	2581	100	47 %	53 %	47 %	24 %	5 %	1 %	4 %
事業所規模									
大	964	100	54	46	40	24	4	1	4
中	872	100	46	54	51	22	6	2	4
小	745	100	69	61	50	25	5	2	4
夫の賃金階級									
1万円未満	10	100	(20)	(80)	(80)	(30)	—	—	—
1～2万円	600	100	34	66	60	27	5	3	3
2～3	942	100	46	54	48	27	6	1	3
3～4	580	100	51	49	41	20	5	1	5
4～5	278	100	59	41	32	17	5	1	4
5万円以上	171	100	65	35	29	16	2	—	3

注：1） 他収入の種類は、1世帯2種類以上の場合もあるので合計は、他収入のある世帯の%より上廻る。

2） （ ）内の数字はサンプル数が少ないので誤差が大きい。

夫の賃金以外に、定期的な別の収入がある世帯は53%、夫の賃金だけしかない世帯は47%である。他収入のある世帯の場合もそのおもな源泉は夫以外の家族の勤労収入である。

一般に大規模事業所及び夫の賃金の高い層では他収入のない世帯が多く、小規模、及び夫の賃金の低い層では他収入を得る傾向——とくに他の家族が雇用労働につく傾向が強くあらわれている。他の家族が雇用労働から収入を得ている世帯は全体の47%（大規模40%、小規模50%）夫の賃金1～2万円の世帯では60%、5万円以上の世帯では29%となっている。）

自営業又は内職による収入のある世帯は全体の24%で、大部分は他の家族の雇用労働と平行して行なわれている。やはり夫の賃金の少ない層のほりが多いが、その差は他の家族の雇用労働の場合ほど大きくはなく、低所得層では内職よりもむしろ他の家族が雇用労働におもむく傾向が強いことを示している。

家賃、地代、貸間料などの不動産収入のある世帯は全体の5%で、とくに夫の賃金の多少による差は認められない。月々きまつて親の生活費など仕送りをうけている世帯は1%程度である。

また、これらの夫の賃金以外の収入をあわせると、1ヵ月あたり金額別世帯分布は3表のとおり

りて、 $\frac{1}{4}$ が5000円未満、 $\frac{1}{2}$ が1万円未満、 $\frac{3}{4}$ が2万円未満である。

3表 夫の勤労収入以外の世帯収入月額別分布

	夫の勤労収入以外 のある世帯数		3000円 未満	3000 ～ 5000	5000 ～ 10000	10000 ～ 20000	20000 ～ 30000	30000 以上	不 明
	実 数	%							
計	1373	100	11 %	13 %	27 %	26 %	13 %	9 %	1 %
大	444	100	12	13	25	27	13	10	—
中	473	100	11	13	25	28	14	8	1
小	456	100	12	12	31	22	11	10	2

3. 妻の就業

(1) 就業状態

4表 妻の就業状態

		総 数		就業し ていない	就業し ている	就 業 の 種 類			
		実 数	%			雇 用	内 職	自 営	不 明
計		2581	100	61 %	39 %	16 %	15 %	7 %	0 %
事業所規模	大	964	100	68	32	11	16	5	0
	中	872	100	61	39	17	14	8	0
	小	745	100	54	46	21	16	8	1
夫の賃金階級	1万円未満	10	100	(50)	(50)	(20)	—	(30)	—
	1～2万円	600	100	44	56	30	15	10	1
	2～3	942	100	59	41	15	19	7	0
	3～4	580	100	69	31	11	14	5	0
	4～5	278	100	77	23	7	11	4	1
	5万円以上	171	100	84	16	2	11	3	—
子どもの有無	学令前の幼児がいる	1153	100	69	31	11	13	6	0
	大規模	435	100	77	23	6	13	4	—
	中規模	407	100	65	35	14	13	7	1
	小規模	311	100	64	36	13	14	9	—
	学令以上の子どもだけいる	1040	100	57	43	17	17	9	0
	大規模	391	100	61	39	11	19	8	1
	中規模	331	100	58	42	16	15	11	—
	小規模	318	100	49	51	25	17	9	1
	子どもなし	385	100	51	49	29	16	3	2
	大規模	137	100	56	46	24	19	2	—
	中規模	134	100	53	47	31	13	2	1
	小規模	114	100	44	56	33	14	4	4
	不 明	3							

夫の賃金以外の収入のある世帯は53%であるが、とくに妻がどの程度働いて家計を助けているかをみると、妻が働いて収入を得ている世帯は39%である。

就業の形は大部分が雇用労働または内職で、それぞれ16%、15%と同じくらい多く、自営業は7%である。妻の就業——とくに雇用労働への就業は、他のどの場合よりも夫の賃金の多少に強く影響されている。夫の賃金1～2万円の世帯では30%の妻が雇用労働についているが、夫の収入がふえるにしたがつて減り、5万円以上では2%と少ない。事業所規模にみると、大11%、小21%と小規模ほど妻の雇用率が低い。これを子どもの有無別にみると、学令以前の幼児のある家庭では妻の雇用率は11%（大6%、小13%）学令以上の子どものある家庭では17%（大11%、小25%）子どものない家庭では29%（大24%、小33%）と、手のかかる子どもがあるほど妻の雇用率は低くなるが、夫の賃金が低い場合には、下表の通り子どもがいても雇用労働につく妻の割合

	1～2万円	2～3万円	3～4万円	4～5万円	5万円以上
	%	%	%	%	%
学令前の幼児がいる	22	11	5	4	0
学令以上の子どもだけいる	32	18	17	7	0
子どもなし	41	25	(15)	(19)	(25)

が高く、夫の賃金1～2万円では幼児をもつ母の22%、学令以上の子どもだけをもつ母の32%が雇用労働についている。雇用労働に比べると内職は各層に1～2割の割合でかなり平均的に行なわれている。

(2) 就業理由

妻の就業する理由を多い順にあげると下表のとおりで、当然ながら家計のたしにするという答が多く、就業するものの7.8%を占めている。かなりはつまり目的を意識しているものとしては「子どもの教育費にあてる」「貯金するため」「家具、電気器具等を買うため」「自分で経済力をもちたいから」が多い。

5表 妻の就業理由

		計		家計のたしにする	子どもあての教育ため	貯金するため	家具を買。電器気器め	自分たの経済力をはかる	暇だから	仕事がいから	社会とのつながり	親、兄弟に仕送るため	その他	不明
		実数	%											
計		955	100	78%	32%	18%	13%	11%	7%	6%	6%	4%	6%	2%
事業所規模	大	312	100	72	33	18	10	11	10	5	8	3	7	3
	中	344	100	82	33	19	16	12	6	7	6	6	7	—
	小	339	100	80	31	17	12	12	6	6	4	1	4	3
就業形態	雇用	413	100	84	33	24	14	12	5	4	10	5	5	0
	内職	392	100	72	30	16	11	10	10	9	3	2	5	2
	自営	178	100	76	37	10	14	12	5	4	6	3	10	5
	不明	12												

注： 答は多答式なので合計は100%にならない。

(3) 今後の就業希望状況

現在働いていない妻が、就業して収入を得ることにとどの程度関心をもっているかをみると下表のとおり、「働きたいと思つて仕事をさがしている」ものが12%、「働きたいと思うが仕事をさがしてはいない」もの14%、計26%（妻全体に対して16%）が、働いて収入を得たい気持をもっている。「働きたいと思わない」ものは7%、「家のことが忙しくて働けない」もの41%、計48%は現在のところ働く気持をもっていない。事業所規模別の差はとくに認められない。

妻の就業希望状況

働きたいと思つて仕事をさがしている	12%
働きたいと思うが仕事をさがしてはいない	14
働きたいと思わない	7
家のことが忙しくて働けない	41
その他	19
不明	7
計（働いていない妻）	100

4. 世帯の総収入

以上、夫の賃金及びその他の定期的収入（他の家族の勤労収入、内職収入、自営収入、不動産

産収入、仕送り等）をすべてあわせた世帯の総収入月額によつて、世帯の分布状況をみると6表のとおり中位の収入階級は3万～3.5万になる。夫の収入だけでは2万円未満の世帯が23%であつたのに対して、他の収入をあわせることにより2万円未満の世帯は11%に減少している。

以下家計の充足状況をみるには、この世帯の総収入階級別にみてゆきたい。

6表 家族数別、世帯の総収入

		計		1万円未満	1～2万円	2～3万円	3～4万円	4～5万円	5～6万円	6～7万円	7万円以上	不明
		実数	%									
大	計	2642	100	—%	11%	31%	25%	15%	8%	3%	5%	2%
	2人家族	310	100	—	17	48	22	6	3	1	1	2
	3	576	100	—	14	38	25	12	5	1	1	3
	4	699	100	—	11	31	26	19	7	3	3	1
	5人以上	1029	100	—	7	22	26	17	12	6	9	1
	不明	28	100	—	(7)	(4)	—	—	—	—	—	—
	計	977	100	—	3	24	30	20	11	4	6	2
中	2人家族	110	100	—	8	51	28	7	4	1	—	1
	3	211	100	—	6	33	31	19	5	2	2	2
	4	268	100	—	3	23	32	25	9	3	4	1
	5人以上	384	100	—	1	13	28	22	17	5	11	2
	不明	4	100	—	—	(25)	—	—	—	—	—	(75)
	計	899	100	—	13	31	23	15	7	4	5	2
小	2人家族	108	100	—	23	45	19	5	2	—	2	4
	3	178	100	1	13	40	25	12	4	1	1	3
	4	241	100	—	17	35	20	15	7	5	1	—
	5人以上	364	100	—	8	22	26	18	10	5	10	1
	不明	8	100	—	—	—	—	—	—	—	—	(100)
	計	766	100	0	17	38	20	10	6	2	4	3
小	2人家族	92	100	1	19	49	17	6	3	3	1	1
	3	187	100	—	24	43	18	6	4	1	2	2
	4	190	100	—	15	37	24	15	5	—	2	2
	5人以上	281	100	—	13	34	22	11	9	5	6	—
	不明	16	100	—	(12)	—	—	—	—	—	—	(88)

5 家計についての充足感

7表 家計充足状況

		総 数		十 分	どうにかまに あっている	不足がち	不 明
		実 数	%				
計		2642	100	7 %	52 %	40 %	1 %
事業所規模	大	977	100	7	57	35	1
	中	899	100	7	51	41	1
	小	766	100	6	47	46	1
家族数	2人	310	100	9	52	36	—
	3人	576	100	9	55	38	1
	4人	699	100	7	52	40	1
	5人以上	1029	100	5	51	43	1
	不明	28	100	(7)	(32)	(53)	(7)
世帯収入	1万円未満	4	100	(0)	(50)	(25)	(25)
	1～2万円	281	100	1	22	75	2
	2～3万円	810	100	3	46	50	1
	3～4万円	654	100	5	62	33	0
	4～5万円	403	100	9	60	30	1
	5～6万円	212	100	12	67	20	1
	6～7万円	92	100	19	65	14	2
	7万円以上	124	100	35	48	15	2
	不明	62	100	10	44	42	4

現在の世帯の総収入で家計が十分にまかなえているかどうかについては、全体としてはどうにかまにあっていると感ずるものが多く52%をしめ、十分と感ずるものは7%、不足がちと感ずるものが40%となっている。

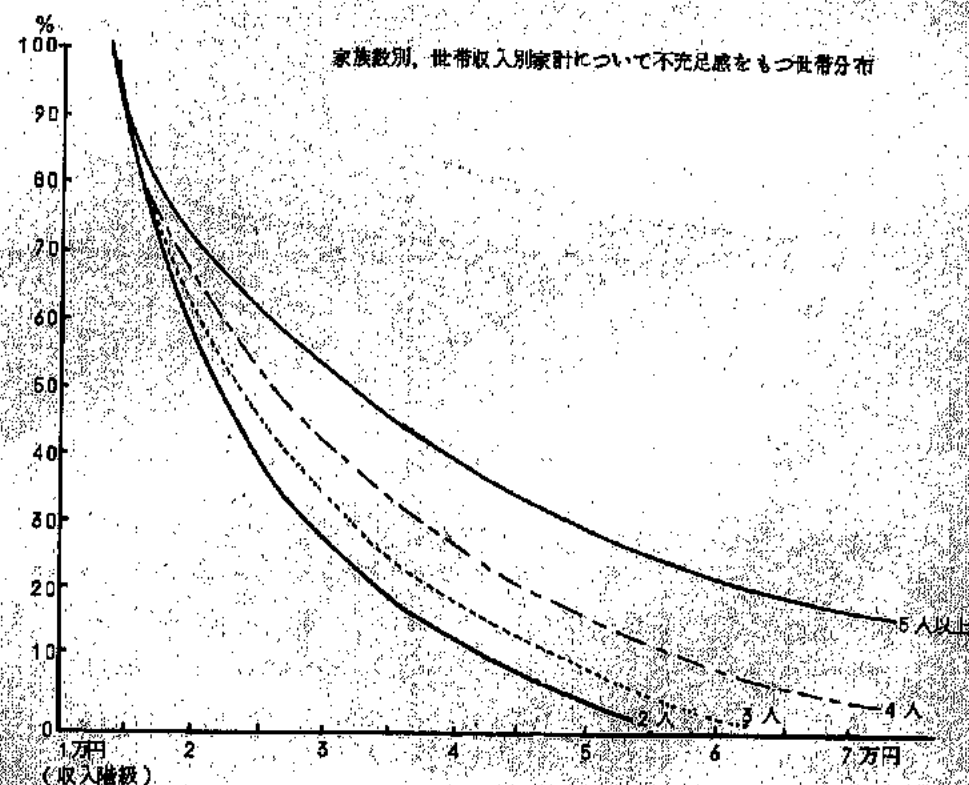
家計充足状況は収入階級によって大きな差があり、1～2万円の低所得層では不足がちと答えたものが75%、収入が高くなるにつれ漸減し、7万円以上では15%となる。

事業所規模別には小規模、家族数別には大家族に不充足感をもつものが多い、(大35%、小46%、2人家族36%、5人以上46%)

家族数別に世帯収入と充足感との関係をみると、8表及びグラフの示す通り、下記のような特徴がみられる。

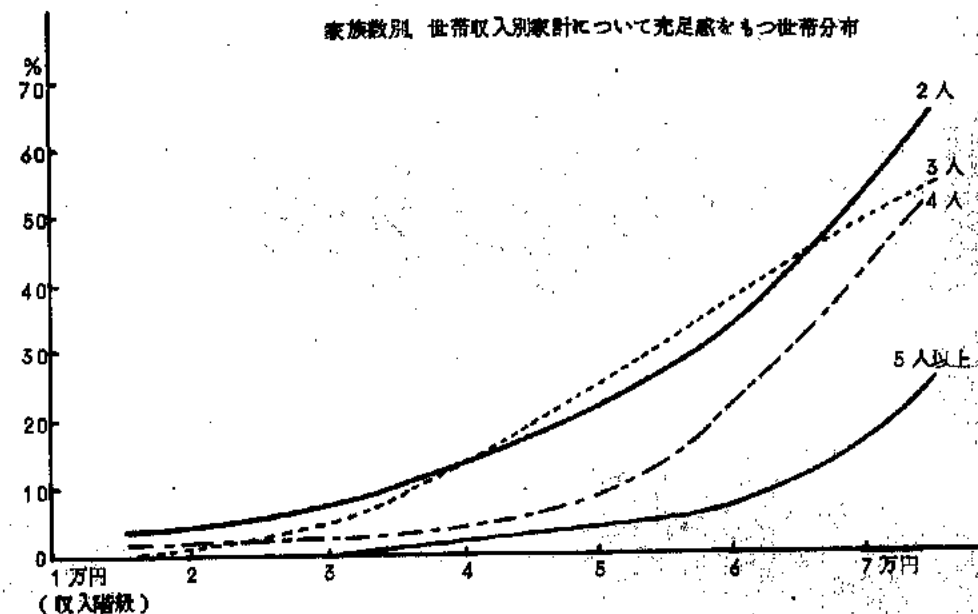
① 不充足感が強い収入階層

充足感には主観的な個人差があると思われるが、世帯の過半数が不充足感をもつようになるのは、2人家族では20000円、3人家族で22500円、4人家族で25000円、5人以上家族で30000円で、さらに収入が低減するにつれて、不充足世帯の比率はほとんど100%まで急カーブに上昇する。上記金額以下の収入階層に入る世帯は全体の26%(大11%、中27%、小39%)である。



② 充足感が強い収入階層

十分と感ずるものが過半数になるのは2～3人家族の7万円以上だけである。しかし2～3人家族では5万円、4人家族では6万円程度をこえると、不充足感をもつのは僅かになり、充足感をもつものが顕著に増大する。5人以上家族では、7万円以上になつても不充足感をもつものが18%があるが、充足感をもつものが29%と上回るようになる。この金額以上の収入階層に入る世帯は全体の7%(大9%、中7%、小6%)である。



8表 家族数別、世帯収入別、「不足がち」および「十分」と答えた世帯の割合

		1~2万円	2~3万円	3~4万円	4~5万円	5~6万円	6~7万円	7万円以上
不足 がち	2人家族	75 %	37 %	22 %	16 %	0 %	0 %	0 %
	3人	77	48	24	15	(4)	0	(11)
	4人	72	51	31	30	17	(5)	(6)
	5人以上	77	62	43	38	26	20	18
十 分	2人家族	4	5	13	16	(22)	(50)	(67)
	3人	0	3	9	21	35	(0)	(56)
	4人	3	3	3	8	10	48	50
	5人以上	0	0	2	4	7	8	29

「不足がち」と答えた世帯に対して、せめてもういくらあつたらよいと思うかをたずねた。答は4500~5500円をのぞく世帯が「不足」と答えた世帯の3.8%（2人家族4.5%、5人以上3.8%）をしめ、4500円未満は1.7%（2人家族1.7%、5人家族1.2%）、5500円~10000円は1.2%（2人家族1.3%、5人以上1.4%）、10000円~15000円は2.3%（2

人家族2.0%、5人以上2.6%）15000円以上7%、（2人家族1%、5人以上8%）となつており、せめてもう3500~7500円程度を希望する世帯が過半数をしめる。大家族世帯のほうに高額の金額を希望するものが多い。

6 とくに荷が重いと感ずる支出項目

(1) 項目

9表 支出項目別、「とくに荷が重い」と答えた世帯の割合

		家賃	教育費	交通費	交際費	保険掛金	月賦支払	医療費
事業所規模	総数	13	8	5	12	8	12	8
	大	13	9	5	10	7	11	7
	中	13	7	8	14	9	15	8
家族数	小	13	8	4	12	6	11	9
	2人家族	31	1	4	13	5	15	6
	3人	18	3	6	12	7	12	6
	4人	11	9	6	11	8	12	9
	5人以上	7	12	1	12	9	13	9

家計の支出項目のうち、家計のバランスなどの点からみてとくに、荷が重いと感じている項目としては家賃、交際費、月賦支払が多く、それぞれ全世帯の1.3%、1.2%、1.2%になっている。これについて教育費、医療費、保険掛金がいずれも8%である。

家族数別にみると小人数家族では家賃をあげるものが多いのに対して、大人数家族では教育費をあげるものが多いことがめだつ。これは小人数家族、とくに2人家族では一般に年齢が若いので、持家や従前からの比較的低家賃の貸家に住むものが少なく、収入も低いので家賃が家計にしめる比重が大きいのに対して、大人数家族では子どもの教育費負担が次第に重くなるためであろう。保険掛金、医療費をあげるものは大人数家族のほうにやや多くなっている。このほか、地代、仕送り、その他の項目をあげるものが若干ある。

(2) 現在の支出金額と、せめてこの程度であつてほしいと思う金額

10表 現在1カ月支出金額と、せめてこの程度であつてほしい金額別、世帯の割合

		荷が重いと答えた世帯の総数		500円未満	500円～1000円	1000円～1500円	1500円～2500円	2500円～3500円	3500円～5000円	5000円～7500円	7500円～10000円	10000円～15000円	15000円以上	不明
		実数	%											
家賃	現在	343	100	—	1%	4%	15%	19%	29%	26%	3%	1%	1%	1%
	せめて			1	3	15	33	28	12	6	—	—	1	1
教育費	現在	211	100	1	4	6	19	20	16	22	5	4	1	2
	せめて			3	10	23	26	19	9	8	1	1	—	—
交通費	現在	144	100	—	15	20	37	13	8	2	2	1	1	1
	せめて			13	40	24	17	3	—	2	—	—	1	—
交際費	現在	316	100	—	2	13	27	24	13	12	4	2	1	1
	せめて			1	20	27	32	13	3	2	0	1	—	—
保険掛金	現在	202	100	0	4	7	24	20	23	15	4	1	1	1
	せめて			4	11	26	36	16	3	4	—	0	—	—
月賦支払	現在	328	100	1	0	5	17	25	21	22	5	4	0	1
	せめて			3	10	30	37	14	2	3	0	1	—	—
医療費	現在	208	100	4	10	28	31	14	4	5	0	1	3	0
	せめて			24	37	26	10	2	—	1	—	—	0	—

とくに荷が重い支出項目をあげた世帯について、それらの項目に現在1カ月あたりどのくらいの金額を支出しているか、またせめてどのくらいの金額であつてほしいと思うかをたずねた。

結果は、10表のとおりで、荷が重いと答えた世帯のうち家賃の現在の支出金額は1500円から7500円までの支出階級が大部分だが、せめてこの程度であつてほしいと思う希望金額は1000円ないし3500円とまりが大部分をしめている。

教育費も同様現在支出金額は1500円ないし7500円の階級が大部分だが、希望としては1000円から3500円とまりが大多数である。交通費は現在500円から3000円までの階級が多く、希望金額はほとんどが2500円とまりで、過半数が1000円未満を希望している。交際費は現在3500円までの階級が多いが、7500円くらいまでかなり分散している。希望金額は2500円までが大多数で、せいぜい3500円まで。保険掛金は現在1500円から5000円までの階級が多く、希望としては500円から2500円までが大多数で、せいぜい3500円まで。月賦支払は現在1500円から7500円を支払うものも多く、希望としては大多数が2500円とまりから、せいぜい3500円まで。医療費は現在

9割が3500円以内でそれ以上の医療費を支出しなければならない家庭は1割だが、希望金額としては9割が1500円未満を、ほとんど全部が3500円までを希望している。

7. もつと金をかけたいと強く感ずる支出項目

(1) 項目

11表 もつと金をかけたいと感ずる支出項目別世帯の割合

		食費	被服費	家具・付器	教育費	医療費	理容衛生費	教育娯楽費	交際費
総数		33 %	34 %	12 %	9 %	3 %	17 %	30 %	9 %
事業所規模	大	35	39	13	10	3	17	38	8
	中	32	32	14	8	4	17	24	11
	小	30	31	10	10	3	17	26	7
家族数	2人家族	34	35	14	6	5	21	35	14
	3人	30	33	11	5	2	17	29	7
	4人	34	40	15	9	4	18	33	11
	5人以上	38	31	11	13	3	15	26	7

家庭の日常生活において、もつと金をかけたいと強く感じている項目は、被服費、食費、教養娯楽費の三つが多く、それぞれ全世帯の34%、33%、30%がこれらをあげている。これについて、理容衛生費17%、家具付器12%、教育費、交際費がそれぞれ9%となつてゐる。むしろ一般的には収入の高い大規模事業所の世帯にもつと金をかけたい項目をあげるもの——とくに教養娯楽費、被服費をあげるものが多い。家族数別にみると、大人数家族に教育費をあげるものが多いのは当然だが、その他はとくに一定の傾向を示してはいない。

(2) 現在の支出金額とせめてこのくらいかけたいと思う金額

もつと金をかけたいと強く感じている項目をあげた世帯に、現在1カ月の支出金額と、せめてこの程度はかけたいと思う金額をたずねた。結果は12表のとおりでおもな項目について集中度の高い金額を示すと被服費は現在1000～3500円、せめて1500～7500円、食費は現在7500～25000円せめて10000～30000円、教養娯楽費は現在500～2500円せめて1000～3500円程度となつてゐる。

さきの「荷の重い支出項目」は現在の家計支出を家計費のやりくりの面からみた意識を示しているのに対して、ここでは現在の物価等を前提とした上で、その家庭の消費内容の

面から感じられる希望が示されているとみるべきであろう。

12表 現在1カ月支出金額と、せめてこのくらいかけたい金額別世帯の割合

		もつと金をかけたいと答えた世帯の総数		5000	5000	7500	10000	12500	15000	17500	20000	25000	30000	50000	不明
		実数	%	円未満	7500円	10000円	12500円	15000円	17500円	20000円	25000円	30000円	円以上		
食費	現在	860	100	3%	10%	17%	22%	13%	17%	4%	10%	3%	1%	0%	
	せめて			3	5	10	15	15	15	12	15	9	2	—	
	総数			500円未満	500円	1000円	1500円	2500円	3500円	5000円	7500円	10000円	15000円	不明	
	実数														
被服費	現在	904	100	2	10	25	35	16	4	3	1	0	—	3	
	せめて			0	2	6	22	32	14	21	1	2	0	—	
家具・電器	現在	324	100	17	25	22	11	8	2	1	—	—	—	14	
	せめて			1	8	28	30	18	6	7	1	1	—	—	
教育費	現在	247	100	4	15	15	26	14	10	10	1	1	1	3	
	せめて			1	6	11	20	22	13	18	2	4	3	—	
医療費	現在	81	100	21	35	25	14	2	1	—	—	—	—	2	
	せめて			5	14	31	33	10	2	5	—	—	—	—	
娯楽・衛生費	現在	453	100	10	32	29	22	4	1	0	—	—	—	1	
	せめて			1	12	26	39	16	4	2	—	—	—	—	
教養・娯楽費	現在	782	100	8	27	35	22	6	1	1	—	—	—	1	
	せめて			0	4	17	38	26	5	8	0	1	—	0	
交際費	現在	241	100	5	17	32	29	10	3	2	0	—	—	2	
	せめて			—	2	18	28	26	13	9	3	0	0	—	

8. 夏季手当のおもな用途

13表 夏季手当のおもな用途の割合

	総数		毎活しす月費まるののえに	借賦いる金のにや支あて	家電買つ具た電を	衣新類調の	貯し金た	株かづをた	その他
	実数	%							
計	2642	100	46%	30%	30%	22%	37%	3%	12%
大	977	100	38	28	37	25	49	4	15
中	899	100	52	35	32	23	34	3	9
小	766	100	48	27	16	18	27	1	10

注：答は多答式なので合計100にならない

調査実施の年の夏季手当のおもな用途をみると、13表のとおり、毎月の生活費のたしなえをあげた世帯がもつとも多く全世帯の46%、ついで貯金37%（株購入をあわせれば40%）、借金月賦等の支払い30%、家具・電器器具等まとまつたものの購入30%、衣類新調22%、その他12%となつている。「その他」の中には、家の修理、たたみがえ、電話とりつけ、墓づくり等の設備費や、出産費用、医療費の支払い、中元・親への小づかい仕送り、旅行等がふくまれる。夏季手当の主要な使いみちとしては、生活費のたしなえをはじめとして、賃金の補てん的な用途にあてる世帯が多いが、さしあつて余剰的に処理されているものとしては旅行、株、貯金がみられる。（ただしこの調査では積立などの純貯蓄と一時あづけてすぐひきだすものを区別しなかつたので、貯金をみな余剰的なものとみることはできないであろう。）

事業所規模別にみると、中・小規模では、生活の補てん的な用途にあてるものが多いのに対して、大規模では貯金ももつとも高率であり、耐久消費財購入、衣類新調等の比率も中小規模に比べて高い。

9. むこう1年間にみこまれるかなり大きな出費とそのまかないかた。

14表 むこう1年間にみこまれる大きな出費の有無とその用途

	総数		な	あ	使途						不
	実数	%			子ども入るの学	子ども結るの婚	出産	土地購入	家建増の築改築入	その他	
計	2642	100	48%	50%	16%	5%	10%	4%	14%	11%	2%
大	977	100	45	53	15	4	10	3	14	13	2
中	899	100	49	49	17	6	9	4	14	9	2
小	766	100	50	48	14	5	10	4	13	9	2

注：用途の答は多答式なので合計は「ある」と一致しない

調査時からむこう1年間にかなり大きな出費のみこまれる世帯は50%である。出費のみこまれる世帯についてその用途をみると、子どもの入学にともなう出費のある世帯がもつとも多くて世帯の16%、ついで家の購入、建築、増改築等が14%、出産10%、子どもの結婚5%、土地の購入4%、その他11%となつている。「その他」の中には、子ども以外の家族の結婚、借金返済、旅行、入院などがふくまれる。

勤労者家庭の収入は弾力性に乏しいので、経常的な出費以外のまとまつた支出を行なうためにはかなりの計画性が必要だが、このような出費をどんな方法でまかなおうとしているかをみると、15表のとおり、むこう1年間にかなり大きな出費のみこまれる世帯の約半数は前から

預金や保険金でそなえている。金を借りる見込みのあるものは1.1%で、このうち公的金融機関にたよるものは約1/4である。家計をきりつめるという答が2.7%、あてがないので困まっているという答が1.4%である。「その他」の9%の中には不動産を売る、ボーナスをあてるがふくまれる。前からそなえがある世帯は大規模ほど多く、あてがなくて困っているのは小規模ほど多い。

1.5表 出費のまかない方

	出費があると答えた世帯		前年からそなえて預金や保	金を借りる						家計をきりつめる	あてがないので困	その他	不明
	実数	%		計	公的金融	民間金融	親せき知人	その他	不明				
計	1320	100	49%	11%	3%	2%	2%	3%	1%	27%	14%	9%	0%
大	513	100	54	12	4	1	2	3	2	24	7	13	—
中	442	100	48	12	2	4	2	3	1	34	16	7	—
小	365	100	44	8	2	1	3	2	—	25	22	5	1

注：答は多答式なので合計は出費があると答えた世帯数と一致しない

1.0 貯蓄とその種類、目的

1.6表 貯蓄の有無

	総数		している	していない
	実数	%		
計	2642	100	84%	16%
大	977	100	89	11
中	899	100	85	15
小	766	100	77	23

預金、保険、株、債券、等なんらかの貯蓄をしている世帯は84%、貯蓄のない世帯は16%となっている。事業所規模別にみると大規模では89%、中規模85%、小規模77%と大規模ほど貯蓄のある世帯が多く、小規模では23%の世帯が貯蓄をもっていない。

1.7表 貯蓄の種類

総件数		預金	保険	株・債券	無尽	その他	不明
実数	%						
4771	100	45%	49%	4%	0%	0%	1%

貯蓄の種類を件数でみると、保険および預金がほとんどで、それぞれ総件数の49%、45%をしめている。ほかに株・債券が4%、無尽等が少数ある。無貯蓄世帯もふくめて、1世帯あたりの貯蓄件数は1.8件となっている。

1.8表 貯蓄の目的

	総件数		教育費	結婚資金	老後のそなえ	家の建築購入等	その他	不明
	実数	%						
計	4771	100	26%	7%	32%	13%	16%	6%
預金	2149	100	29	7	20	20	20	4
保険	2335	100	25	8	42	6	12	7
株・債券	205	100	15	2	41	21	12	9
無尽	22	100	(14)	(5)	(10)	(23)	(27)	(28)
その他	20	100	(15)	(—)	(10)	(40)	(30)	(5)
不明	40	100	(8)	(5)	(32)	(20)	(45)	(20)

貯蓄のおもな目的をみると、件数として保険が多いため当然老後のそなえを目的とするものが多い2%をしめ、ついで教育費26%、家をもつため13%、結婚資金7%、その他16%である。「その他」としては出産費用、不時の出費、生活費補てん、土地購入、利殖、旅行、墓づくり等の目的がみられる。不時の出費、生活費補てんのためのそなえとしての貯蓄は、多くの場合他の主要目的にかねて行なわれているとみられよう。種類別にみると、保険、株、債券では老後のそなえが多く、預金では教育費が多い。

19表 貯蓄の名義

	総件数		妻	夫	子ども	親	その他	不明
	実数	%						
計	4771	100	18%	52%	25%	3%	1%	1%
預金	2149	100	20	55	21	2	1	1
保険	2335	100	17	49	30	3	1	1
株・債券	205	100	14	69	9	4	4	—
無尽	22	100	(36)	(59)	—	(5)	—	—
その他	20	100	(25)	(55)	(5)	(15)	—	—
不明	40	100	(5)	(35)	(20)	—	—	(40)

貯蓄は家族のだれの名義で行なっているかをみると、夫名義が総件数の52%でもつとも多く、ついで子ども25%、妻18%、親3%となつている。

11 定年後の生活設計

20表 妻が夫の定年を知っているか

	総数		知っている	知らない	不明
	実数	%			
計	2642	100	80%	17%	3%
大	977	100	96	3	1
中	899	100	84	13	3
小	766	100	53	38	9

夫の事業所の定年は何才かを知っている妻は80%、知らないものは17%である。大規模事業所の世帯ではほとんどの妻が夫の定年を知っているが、小規模では53%と低い。小規模事業所では定年制が必ずしもはつきりしていない場合があるためであろう。

21表 夫の定年後の生活費のまかない方

		総 数		収入を得る 夫が職について	退職金、年金 でまかなう	所得でまかなう 家賃などの不動産	養老保険でま なう	貯金をつかう	子どもの世話に なる	わからない どうしてよいか	まだ考えてい ない	そ の 他	不 明
		実 数	%										
計		2642	100	33	21	3	7	10	13	7	39	5	3
事業所規模	大	977	100	32	27	3	8	15	9	4	40	5	1
	中	899	100	42	23	4	7	9	14	8	38	4	2
	小	766	100	24	11	3	6	6	15	10	38	5	7
定年までにあと何年	小 計	2104	100	37	24	4	8	11	13	7	38	5	1
	5年未満	146	100	55	18	5	5	8	30	12	17	6	1
	5～10年	260	100	57	27	3	9	9	18	8	19	8	0
	10～15年	315	100	46	30	3	13	12	11	6	32	5	0
	15年以上	1263	100	31	24	4	7	13	9	7	46	5	

注 答は多答式なので合計100にならない。

勤労者家庭にとって定年後の生活設計は重要な問題だが、この調査では定年後の生活のめとをどの辺りにおいているかを、定年までの年数との関連で調べた。

定年までにまだ15年以上ある層では半数が老後の計画まで「まだ考えていない」と答えている。定年が近くなると「まだ考えていない」ものは急に少なくなるが、定年までに後5年以内の層でも17%の妻がまだ考えていないと答えている。

定年後の生活費のまかない方としては、「夫が職について収入を得る」という答を30%の世帯があげており、ついで「退職金・年金でまかなう」21%、「子どもの世話になる」13%、「貯金をつかう」10%の順になつている。退職金・年金貯金でまかなうと考えているのは、定年までに間がある層のほうに多く、定年間近かつた層では「夫が職につく」、「子どもの世話になる」という答が高率になる。「どうしてよいかわからない」という答は定年までに5年以内の層で12%、15年以上の層で7%程度になつている。

事業所規模別にみると、退職金、年金、貯金にたよろうとするのは大規模はと多く、「子どもの世話になる」「どうしてよいかわからない」は小規模の方が多。

Ⅱ 食生活

1 肉・卵

22表 肉の1人1週間あたりの摂取量

	総 数		50g	50~	100~	200~	300~	400~	500g
	実 数	%	未満	100g	200g	300g	400g	500g	以上
計	2298	100	13%	16%	31%	19%	9%	6%	6%
大	898	100	11	16	32	21	9	5	6
中	799	100	17	16	29	16	8	7	7
小	601	100	12	18	31	19	8	6	6

食生活のうち、動物性蛋白質の摂取状態をみるため、特に肉と卵を1人が1週間どの位食べているかを質問した結果、肉の摂取量は22表のとおり100~200gが中位で約半を占め、200~300gが19%で、半数が100~300gを摂取している。しかし、29%の世帯は100gに満たない。300g以上の世帯は21%である。

事業所規模別にみると、中規模で100~300gがやや少く、50g未満がやや多いほかは、とくに規模による差はみられない。

23表 卵の1人1週間当りの摂取量

	総 数		1コ又は	2	3	4	5	6	7コ
	実 数	%	1コ未満						以上
計	2524	100	5%	15%	20%	11%	20%	7%	22%
大	957	100	3	10	16	14	23	8	26
中	855	100	5	19	24	6	19	7	20
小	712	100	9	17	23	12	16	5	19

卵の摂取状況を見ると、1日1コ当り又はそれ以上消費している世帯は22%、2日に1コ位の世帯は30%、1週間に1コあるいは2コの世帯が20%で、中位は1人1週間4コである。

事業所規模別にみると、1週間に5コ以上とる世帯は規模の大きくなるほど多く、3コ以下の世帯は小規模に多い。

2 牛 乳（月ぎめ）

24表 牛乳の月ぎめ購入およびのむ人

	総 数		い る				の む 人				いない
	実 数	%	小 計	1本	2本	3本以上	妻	夫	子ども	親 その他	
計	2589	100	57%	26%	20%	11%	14%	23%	43%	6%	43%
大	966	100	66	27	24	15	17	27	52	6	34
中	887	100	51	22	20	9	12	21	40	5	49
小	733	100	51	28	15	8	14	20	35	6	49

牛乳を月ぎめ購入している世帯は、全体としてみると5.7%、そのうち26%が1本、20%が2本、11%が3本以上購入している。のむのは子どもが最も多く、次いで夫、妻、親・その他となつている。

事業所規模別にみると、大では66%が購入し、中・小では51%である。又大では2本以上とつている世帯が多い。

3 ふやしたい食品

25表 ふやしたいと思う食品

	総 数		肉	果物	牛乳	野菜	乳製品	卵	魚	菓子	酒	その他
	実 数	%										
計	2376	100	61%	60%	34%	28%	33%	25%	15%	5%	5%	2%
大	905	100	56	63	39	23	34	19	2	3	4	1
中	815	100	64	60	31	30	34	34	16	5	6	3
小	656	100	64	56	32	31	31	21	19	6	5	1

注：答は多答式なので合計100にならない。

もつとふやしたい食品は、肉、果物が最も多く、60%の世帯がもつとふやしたいと思つている。次いで牛乳、乳製品、野菜、卵、魚の順になつており、菓子、酒は低率である。

事業所規模大では果物をふやしたいと思う世帯がもつとも多く、中、小では肉をのぞむ世帯がもつとも多い。牛乳をのぞむものは大規模が多く、魚、野菜をのぞむものは小規模のほうが多い。

4. 外 食

26表 外食をする家族

	計	朝	昼	夕
妻	計	4%	0%	3%
	大	3	3	0
	中	5	4	1
	小	4	3	0
夫	計	36	30	3
	大	50	41	4
	中	33	28	4
	小	20	18	2
子ども	計	17	16	0
	大	19	17	0
	中	19	19	0
	小	12	11	0
親 その他	計	3	2	0
	大	2	1	0
	中	6	5	1
	小	2	1	1

注 弁当持参は外食とみなさない。

家族のうち常態として外食をするのは、主として夫と子どもであり、夫は36%、子ども17%である。夫の場合を規模別にみると、大では50%、中33%、小20%で大規模ほど外食が多いが、殆んどは昼の外食で（弁当持参は外食とみなさない）夕は大、中で4%、小で2%にすぎない。子どもの場合もほとんど昼の外食である。

5. 間 食

27表 間食の習慣

	総 数		あ る				な い
	実 数	%	小 計	10時	3時	夜 食	
計	2,592	100	55%	13%	33%	19%	45%
大	964	100	59	14	39	22	41
中	886	100	61	12	30	19	39
小	742	100	43	11	28	16	57

間食の習慣があると答えたのは半分よりやや多い55%の世帯である。

しかし小規模事業所ではある世帯のほうがない世帯より少ない。間食をとる時は3時が多く、夜食がこれに次ぐ。3時は十、夜食は十の世帯がとっている。

6. 飲 酒

28表 酒をのむ習慣

	総 数		の む				のまない
	実 数	%	小 計	毎日きまつて	毎日でないがよくのむ	ときどき	
計	2,616	100	65%	14%	11%	40%	35%
大	974	100	75	21	13	41	25
中	888	100	53	2	12	39	47
小	754	100	67	17	8	42	33

家庭で酒をのむ習慣があると答えた世帯は65%で、そのうち40%はときどきのむと答え、毎日きまつて、又は毎日ではないがよくのむと答えたものは25%である。規模別にみるとのむ習慣のある世帯は大と小に多く、中では少ない。

1. 通 勤 服

29表 通勤服保有状況

	総 数		3着 以下	4	5	6	7	8	9	10着 以上
	実 数	%								
計	2,517	100	44%	17%	15%	9%	6%	4%	2%	3%
生産労働者	1,606	100	51	19	14	7	5	3	1	1
職員等	911	100	31	15	17	12	9	7	3	6
大 計	939	100	41	17	16	10	7	5	1	3
大 生産労働者	551	100	48	17	17	8	5	3	1	1
大 職員等	388	100	31	16	15	13	9	7	2	6
中 計	875	100	42	18	16	9	7	4	1	3
中 生産労働者	565	100	49	20	15	5	5	3	1	2
中 職員等	310	100	30	14	18	15	10	6	2	5
小 計	703	100	49	18	13	7	5	3	2	3
小 生産労働者	490	100	54	20	10	7	4	2	0	1
小 職員等	213	100	33	14	19	7	6	7	4	10

注 通勤服はセビロその他ふだん通勤に用いている服

夫の通勤服の保有数は、生産労働者の9割が6着以内で中位は3着、職員等の9割が8着以内で中位は5着となっている。保有数が3着以下の世帯は全体の4.4%（生産労働者の5.1%、職員等3.1%）である。

規模別にみると、生産労働者では大規模のほうが持数が多く、職員層ではあまり差がない。

30表 通勤服保有数別、職種別充足状況

		総 数		十 分	何とか まにあう	もつと ふやしたい	不 明
		実 数	%				
規 模 別	計	1,697	100	9%	3.9%	5.0%	2%
	生産労働者	945	100	18	4.5	3.7	0
	職員等	546	100	9	4.1	5.0	0
	大 計	220	100	21	4.4	3.4	1
	大 生産労働者	582	100	9	4.0	5.0	1
	大 職員等	317	100	15	4.8	3.7	0
	中 計	569	100	10	3.5	5.0	5
	中 生産労働者	408	100	16	4.0	4.2	2
	中 職員等	811	100	5	3.3	6.2	0
	小 計	284	100	9	3.9	5.2	—
	小 生産労働者	305	100	8	4.4	4.8	0
	小 職員等	134	100	11	4.3	4.6	—
保 有 数 別	3着以下	225	100	10	4.5	4.5	0
	4着	156	100	15	4.7	3.8	—
	5着	109	100	23	5.0	2.7	—
	6着	113	100	22	5.5	2.3	—
	7着	77	100	17	4.3	3.8	2
	8着	78	100	22	5.3	2.5	—
	9着	43	100	28	5.3	1.9	—
	10着以上	61	100	30	4.9	2.1	—
	不明	14	100	29	4.2	2.9	—
	不明	28	100	39	5.2	8	—
	不明	22	100	18	5.5	2.7	—
	不明	62	100	42	4.4	1.4	—
	不明	91	100	12	2.7	3.1	30
	不明	84	100	29	2.4	2.1	26

通勤服の充足状況をみると、生産労働者世帯の48%が「十分」又は「どうかまにあっている」と答え、50%が「もつとふやしたい」と答えている。職員層ではそれぞれ63%、37%で生産労働者よりも充足感が強い。

事業所規模別にみると生産労働者ではいずれの規模も50%が不充足感をもっており、職員では小規模ほど不充足感が強くなっている。(大4% 中37% 小42%)

保有数と充足感との関係をみると、3着以下になると過半数が不充足感をもつようになり、8着になると十分と感ずるものが不足と感ずるものを上回るようになる。同じ持数では職員層よりも生産労働者のほうが不充足感をもつのが多い。

2. ワイシャツ

31表 ワイシャツ保有状況

		総 数		3 枚 以下	4 枚	5 枚	6 枚	7 枚	8 枚	9 枚	10 枚 以上
		実 数	%								
計	計	2,592	100	23%	17%	20%	11%	9%	7%	3%	10%
	生産労働者	1,657	100	30	20	19	10	8	5	2	5
	職員等	935	100	12	12	22	13	11	10	4	16
大	計	966	100	14	16	21	14	11	10	3	11
	生産労働者	564	100	18	19	21	13	10	8	3	8
	職員等	402	100	8	10	22	15	12	11	4	18
中	計	887	100	25	19	20	11	9	7	2	8
	生産労働者	571	100	30	22	20	10	9	5	2	3
	職員等	316	100	14	12	19	13	10	10	4	16
小	計	739	100	33	18	19	8	7	5	3	7
	生産労働者	522	100	42	20	16	7	6	3	2	5
	職員等	217	100	13	13	25	11	10	9	5	14

ワイシャツの保有数は生産労働者の9割が7枚以内で中位は5枚、職員等の9割が10枚以内で中位は6枚である。持数3枚以下の世帯は生産労働者の30%、職員等の12%である。

事業所規模別にみると、規模の大きいほど保有数の多い世帯が多く、とくに生産労働者については規模による差がかなり顕著である。どの規模でも、職員等の世帯は生産労働者に対して保有数が多い。

32表 職種別、規模別、ワイシャツ保有数別充足状況

		総 数		十 分	何と かまにあ う	もつと ふやしたい	不 明	
		実 数	%					
規 模 別	計	生産労働者	1,697	100	16%	45%	38%	1%
		職員等	945	100	29	46	24	1
	大	生産労働者	569	100	20	49	31	1
		職員等	408	100	30	48	20	2
	中	生産労働者	582	100	14	44	41	1
		職員等	317	100	26	48	25	1
	小	生産労働者	546	100	15	42	41	3
		職員等	220	100	30	40	30	1
	3枚 以下	生産労働者	493	100	4	34	61	1
		職員等	111	100	6	41	52	1
	4枚	生産労働者	337	100	9	50	40	1
		職員等	108	100	11	50	36	3
保 有 数 別	5	生産労働者	315	100	17	54	27	2
		職員等	202	100	21	50	28	1
	6	生産労働者	165	100	25	52	22	1
		職員等	124	100	29	50	20	—
	7	生産労働者	139	100	30	50	20	—
		職員等	104	100	36	48	16	—
	8	生産労働者	86	100	37	43	20	—
		職員等	98	100	33	53	14	—
	9	生産労働者	38	100	37	45	16	2
		職員等	38	100	45	45	8	2
	10枚 以上	生産労働者	84	100	48	43	12	—
		職員等	150	100	59	34	7	—
	不明	生産労働者	40	100	2	25	45	28
		職員等	10	100	—	20	20	60

ワイシャツの充足状況は、生産労働者世帯では「十分」と答えたもの16%、「何とかまにあう」と答えたものが45%、「もつとふやしたい」が38%、職員世帯ではそれぞれ29%、46%、24%で、通勤服の場合よりも全般的に足りているものが多い。

職員層、大規模ほど充足感がよい。

ワイシャツの充足状況を保有数別にみると、保有数3枚以下になると過半数が不充足感をもつようになり、十分と感ずるものが不足を感ずるものを上回るのは6枚である。

同じ枚数では一般に生産労働者は職員層に比べて不充足感が強い。

IV 住 宅

1. 住宅の種類

33表 住宅の種類

	総 数		持家	民 営 借 家	民 営 借 間	公 営 借 家	給与住宅	給与住宅のうちわけ					
	実 数	%						一戸建	二戸建	長 屋	家族家	鉄筋アパート	その他
計	2,642	100	49%	16%	8%	5%	22%	4%	7%	4%	2%	4%	1%
大	977	100	44	14	7	5	30	3	9	6	2	8	2
中	899	100	53	15	8	6	18	5	7	2	1	2	1
小	766	100	53	18	9	6	14	4	5	3	1	0	1

住宅の種類は、持家が最も多く49%を占める。次いで民営の借家、借間が24%、給与住宅（社宅）22%、公営住宅5%となつている。給与住宅のうちわけをみると、二戸建がそのうちの半を占める。一戸建、長屋、鉄筋アパートがそれぞれ4%で同じ割合となつている。

事業所規模別にみると、大では持家が他と比べて少なく、給与住宅が多く、そのうちの鉄筋アパートが比較的多くなつている。小では民営借家が多く、給与住宅が少なく、その割合は大の半分である。

2. 設 備

34表 住宅の種類別、ガス、水道、風呂、便所の有無

	総 数		ガ ス				水 道				風 呂		便 所		
	実 数	%	あ る	な	不	あ る	あ る	な	不	あ	な	不	水 洗 式	水 洗 式 で な い	不 明
計	2,642	100	55	54	1	34	11	87	72	15	11	2	82	48	0
持 家	1,306	100	56	55	1	33	11	84	73	11	13	3	69	31	0
民営借家	415	100	46	45	1	42	12	83	68	15	14	3	28	72	—
民営借間	203	100	46	42	4	39	15	88	42	46	10	2	18	81	1
公営借家	147	100	58	57	1	31	11	95	77	16	5	1	43	57	—
給与住宅	571	100	60	59	1	30	10	95	82	13	4	1	46	54	0

住宅のガス、水道、風呂、便所などの設備をみると、総合的にはこれらの設備のある世帯は、ガス55%、水道87%、風呂52%である。便所が水洗式の世帯は9%にすぎない。住居の種類別にみると、水道、ガスのある世帯が多いのは、公営借家、給与住宅で、風呂があるのは持家の世帯に多い。便所が水洗式である家は、持家ではわずか2%、公営借家、給与住宅では20%を超えている。民営借家・間は一切に設備が劣り、とくに風呂のある家は少い。

3. くあいのおりい個処

35表 住宅の種類別、くあいの悪い所

	総 数		所 がある 悪 い	箇 所									
	実 数	%		危 な 険 所	こ い わ れ 所	雨 が あ る	湿 多 い が	通 風 が	採 光 が	悪 い が	老 朽 化 る	そ の 他	な い
計	2,642	100	48%	5%	7%	15%	16%	9%	9%	17%	3%	48%	4%
持家	1,306	100	43	4	6	15	12	7	8	9	2	53	4
民営借家	415	100	64	8	9	24	20	13	13	27	2	34	2
民営借間	203	100	54	9	7	19	13	19	17	17	6	59	7
公営借家	147	100	40	3	5	10	15	8	5	4	6	88	2
給与住宅	571	100	47	3	5	11	22	8	8	15	3	49	4

注：悪い箇所の答は多答式の合計はくあいの悪い箇所がある世帯の多と一致しない。

住宅の状態については、ぐあいの悪い箇所があると答えた人といないと答えた人は半々である。悪い点は、老朽化している、湿気が多い、雨もりがする、などが多く、次いで通風が悪い、採光が悪い、こわれているなどである。住居の種類別にみると、民営の借家、借間では悪い所があると答えた人が多く、公営借家、持家では少なく、給与住宅では約半々である。悪い点は、総体的に湿気が多い、雨もりがする等がどの住居にも多く、悪い所があるの答が比較的少ない持家や公営借家でも、湿気と雨もりが多くなっている。民営借家では老朽化、雨もり、湿気等が多く、民営借間ではその他通風、採光なども悪いと答えたものがかなりあつた。給与住宅では湿気が多いが最も多く、老朽化、雨もりが次いで多かつた。

4. 子どもの部屋

36表 住宅の種類別、子どもの部屋の有無

	10才以上の 子どものある 世帯の総数		ある	めいめい・共同別					ない
	実数	%		めいめい にある	兄弟共同 の部屋が ある	姉妹共同 の部屋が ある	みんな一 諸の部屋 がある	その他	
計	1,272	100	53%	11%	16%	13%	11%	5%	47%
持家	704	100	60	15	19	14	11	5	40
民営借家	172	100	39	8	11	8	9	4	61
民営借間	43	100	14	—	2	2	2	7	86
公営借家	64	100	39	5	9	20	8	—	61
給与住宅	289	100	53	7	16	14	13	6	47

注：めいめい・共同別の答は重複する場合があるので合計は「ある」と一致しない

10才以上の子どもをもつ世帯のうち、子どもの部屋のある世帯は53%で、大部分は子ども同志共同の部屋である。「その他」は他の家族員と共同の部屋がある、他の目的にも兼ねて使う部屋があるなどである。

住宅の種類別にみると、持家では子ども部屋のある世帯はやや多く60%となつている。給与住宅では子ども部屋のある世帯は53%、公営借家、民間借家はともに半分以上の39%である。

5. としよりの部屋

37表 住宅の種類別、としよりの部屋の有無

	としよりのいる世帯の総数		ある	ない
	実数	%		
計	727	100	44%	56%
持家	495	100	53	47
民営借家	97	100	25	75
民営借間	18	100	(6)	(94)
公営借家	28	100	(18)	(82)
給与住宅	89	100	31	69

注：() 内の数字はサンプル数が少ないので誤差が大きい。

としよりが一諸に住んでいる世帯のうち、としよりの部屋のある世帯は44%である。住宅の種類別にみると、持家では53%があると答えているが持家以外ではとしよりの部屋のある家は少く、給与住宅では31%、民営借家では25%である。

6. 充足状況と不満な点

38表 住宅の種類別、家の構造の充足状況

	総数		満足している	まあまあ満足	不満足	不満な点								不明
	実数	%				全体的に	台所まがい	台所の不構便	風呂がは	間悪どりが	たがて悪つけ	日悪どりが	その他	
計	2,642	100	8%	35%	56%	46%	21%	23%	19%	16%	11%	10%	3%	1%
持家	1,306	100	9	40	50	38	17	21	15	18	9	8	3	1
民営借家	415	100	4	27	68	57	26	30	30	18	16	15	2	1
民営借間	203	100	2	17	73	64	30	30	25	15	10	21	6	7
公営借家	147	100	3	42	55	51	27	17	25	13	9	3	1	1
給与住宅	571	100	13	33	54	47	22	19	17	12	11	8	3	1

家の構造について「満足している」と答えた人は8%で、「まあまあ満足」が35%、「不満足」が56%で不満足をもつものが多い。不満な点をみると、全体的にせまいという答が最も多く、台所がせまい或は台所の構造が不便といった不満がこれに次ぎ、風呂場がほしい、間とり、たてつけ、日当たりが悪いなどの不満も若干あつた。なお風呂については風呂のない世帯の42%がないことを不満としている。

持家に住んでいるものでは、満足の程度はやや高くなり、満足と不満足は半々の割合である。民営の借家、借間では勿論不満足の割合は高く約7割が不満と答えている。公営借家、給与住宅ではともに45%が満足と答え、不満足が半分をやや上回る。

不満足の最も多い理由である「せまい」と答えた世帯を家族数別にみると、家族数の多いほどその割合がやや高い。(2人家族42%, 3人40%, 4人48%, 5人49%)

39表 住宅の種類別、家の設備充足状況

	総 数		満 足	まあまあ満足	不 満 足	不 満 足 の 点					不 明
	実 数	%				ガスがほしい	水道がほしい	下水の状況が悪い	便所に水洗式	その他	
計	2,642	100	8%	49%	41%	11%	10%	12%	20%	7%	2%
持 家	1,306	100	8	50	40	11	10	12	20	6	2
民営借家	415	100	4	39	54	18	15	16	25	8	3
民営借間	203	100	2	37	51	17	15	12	21	10	10
公営借家	147	100	9	63	27	11	6	8	7	7	1
給与住宅	571	100	15	52	31	6	5	9	18	5	2

家の設備について、満足と答えた人は8%、まあまあ満足49%、不満足41%となつている。不満足と答えた人の不満な点については、便所に水洗にしたいが最も多く20%、次いでガスがほしい、水道がほしい、下水の状況が悪い等が10%程度である。しかしこれを未保有世帯だけについてみると、水道についてはない世帯の93%が不満をもつ非常に不満の程度が高く、ガスはない世帯の34%、便所は水洗式でない世帯の22%が不満をもっている。不満のある世帯の比率は民営借家がかつとも高く54%、ついで持家40%で、公営住宅、社宅は3割前後と低率である。

7. 建築、転居等の計画

40表 住宅の種類別転居等の計画の有無

	総 数		あ る					な い	不 明
	実 数	%	小 計	転 居	新 築	増 築	改 築		
計	2,642	100	42%	5%	15%	12%	11%	50%	8%
持 家	1,306	100	51	2	11	20	20	41	8
民営借家	415	100	40	11	21	4	5	53	7
民営借間	203	100	38	16	19	2	2	53	8
公営借家	147	100	38	3	16	14	5	55	7
給与住宅	571	100	25	4	18	2	2	65	10

現在、転居、新築、増・改築などの計画があると答えた世帯は42%、ない世帯が50%である。計画のうちで多いのは新築15%、増・改築10%余で、転居は5%である。計画があると答えた世帯は持家に最も多く51%、民営の借家、借間、公営借家等では約40%、給与住宅では25%で少ない。持家に住む世帯では増・改築の計画が多く、持家以外では新築を志すものが多い。民営借家、借間では他の住宅に比べて転居計画をもつものが目立つて多く、公営住宅では増築計画もかなりみられる。

8. 周囲の緑

41表 目をなくさめる樹木、草花の有無

	総 数		豊富にある	少しある	ほとんどない	不 明
	実 数	%				
計	2,642	100	26%	52%	20%	2%
持 家	1,306	100	32	51	16	1
民営借家	415	100	18	49	32	1
民営借間	203	100	14	44	38	4
公営借家	147	100	26	62	11	1
給与住宅	571	100	22	57	19	2

家のまわりに目をなくさめる樹木、草花等が豊富にあると答えた世帯は26%、少しあるが52%、

ほとんどない2.0%である。豊富にあるのは、持家に多く3.2%、他は2.0%前後である。少しあると答えた世帯はどの住宅でも5.0%前後である。ほとんどないは民間借間、借家にめだつて多い。

9. 深夜勤務のある労働者の睡眠

夫が深夜勤務のある世帯は2.7%で、規模小では少ない。(大2.9%, 中3.1%, 小1.8%)

夜勤のあるもののうち夜勤あけに安眠できないと答えたものが5.6%ある。

安眠できない理由をみると、「外部の音がうるさい」という答えをあげるものが6.2%、

「子どもがさわぐ」4.5%、「部屋がない」2.5%となっている。

V. 耐久消費財

4.2表 耐久消費財の保有状況

	もっている				もっているが あまり利用 価値がない	月 賦 で 支払った	今購入 計画の あるもの
	計	大	中	小			
電 気 洗 たく 機	58	72	50	48	3	31	27
電 気、ガ ス、冷 蔵 庫	81	40	28	23	1	37	23
電 気 釜	61	66	60	55	7	20	14
瞬 間 ガ ス 湯 沸 器	4	4	6	2	12	24	3
天 火	8	10	7	5	26	8	3
ト ー ス タ ー	33	43	28	24	22	6	4
ミ キ サ ー	13	13	14	11	45	27	4
ジ ュ ー サ ー	7	7	5	7	30	21	7
ま ほう び ん	59	67	55	54	9	8	11
電 気 掃 除 機	21	29	20	12	7	29	14
扇 風 機	53	63	47	46	3	26	17
ル ーム ク ー ラ ー	1	0	1	1	1	4	2
ミ シ ン	81	85	83	72	10	31	17
自 転 車	77	75	81	76	1	30	9
電 話	6	5	7	7	0	9	3
テ レ ビ	81	86	81	75	1	46	28
カ メ ラ	48	58	47	36	17	18	10
オ ル ガ ン	8	11	7	4	12	19	3
ビ ア ノ	2	3	2	1	0	32	1
そ の 他 の 楽 器	14	17	10	13	25	5	1
ラ ジ オ	77	77	79	74	24	15	2
ト ラ ン ジ ュ ス タ ー ラ ジ オ	29	35	25	24	13	23	5
プ レ イ ヤ ー	15	21	15	9	30	16	2
ス テ レ オ	5	7	5	5	21	30	5
撮 影 機	3	3	3	1	23	20	1
乗 用 車	2	2	3	2	9	38	2

注 今購入計画のあるものは、未保有世帯に対する比率である。

耐久消費財の保有状況は4.2表のとおり。保有する割合の最も高いものはテレビ、ミシンの81%、次いで自転車、ラジオの77%、電気洗たく機、電気釜、まほうびんの約60%である。事業所規模別にみると、ごく少数の例外を除いては規模の大きい方が保有する割合が高く、規模間の差はかなりのひらきをみせている。

もっているがあまり利用価値がないと答えたものは、ミキサーが最も多く、もっている人の45

%をしめている。20～30%の人があまり利用価値がないと答えたものは、ジュース、プレイヤー、天火、ラジオ、オルガン、ピアノ以外の楽器、ステレオ、撮影機などである。前に利用価値が高いと思われるものは洗濯機、電気冷蔵庫、扇風機、自転車、電話、テレビ、ピアノである。

耐久消費財をどの位月賦で購入したかをみると、テレビは月賦による支払いがもつとも多く、46%が月賦購入しており、ついで電気冷蔵庫37%、乗用車38%が多い。

現在購入計画があるものは、テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫が最も多く、もっていない人のそれぞれ27、23%の人が計画があると答えている。10～17%程度が計画のあるものは電気釜、まほうびん、電気掃除機、扇風機、ミシン、カメラなどである。

Ⅴ 保 健

1. 家族の健康

43表 家族の健康状態

	総 数		健 康	弱いもの がいる	弱 い も の					不 明
	実 数	%			妻	夫	子ども	親	その他	
計	2,642	100	77	22	8	5	6	4	1	1

家族の全員が健康である世帯は77%、弱いものがある世帯は22%である。

2. 入 浴

44表 自家風呂有無別主婦の入浴回数

	総 数		毎 日	1日おき	週に2、3回	週に1回	その他
	実 数	%					
計	2,642	100	62	23	12	2	1
自家風呂あり	1,375	100	72	19	8	1	1
自家風呂なし	1,257	100	51	27	18	3	1
不 明	10	100	40	30	10	—	20

入浴の頻度を主婦の8月についてみると毎日62%、1日おき23%、週に2、3回12%で、殆んどが毎日又は1日おきに入浴していることになる。自家風呂の有無別にみると、自家風呂のある家では72%が毎日入ると答え、ない家の51%よりかなり多い。

3. 保健所の利用

45表 保健所の利用状況

	総 数		たびたび利用する	たまに利用する	利用しない	不 明
	実 数	%				
計	2,642	100	7	23	58	12

保健所の利用状況については、利用しないと答えた人が過半数の58%である。利用する人は、たびたび7%、たまに23%を合せて30%である。

利用する目的は、健康診断(とくに子ども)、育児相談、予防接種、その他(栄養料理講習、母親学級、食品分析、水質検査)などである。

4. 害虫・じん芥

46表 害虫等の駆除状況

総 数	実 数	%	薬品などを 常備して手 まめに駆除 している	時々使 っている	薬剤は余 り使わず 手などで とる	出ないの でその必 要がない	そ の 他	不 明
計	2,642	100	40	53	3	3	1	1

害虫等の駆除を、薬品などを常備して手まめにしている世帯は40%、時々使っていると答えた世帯は53%で大部分は駆除に心がけている。

薬剤を使用しない世帯は6%にすぎず、その中には害虫があまり出ない世帯も含まれる。

47表 じん芥処理状況

総 数	実 数	%	うまくいつている	うまくいつていない	不 明
計	2,642	100	74	14	12

じん芥処理は74%がうまくいつていると答えている。

円滑にいかず困っている点は次のようなことがあげられている。

- 役所のじん芥集収回数が少ない。又は定期的にとない。
- ごみ捨て場がない又は遠い。
- 海、川、土手等に捨て不潔になつている。
- 共同のごみ捨て場が不潔で害虫の発生場所になつている。
- 燃せないもの(屑木、空き缶、びん、灰等)の処置に困る。
- 昼間不在の家庭(主婦が働いている等)は衛生車の利用ができない。

5. 家族計画

48表 適当と思う子どもの数

	総 数		1 人	2 人	3 人	4 人	5人以上	不 明
	実 数	%						
計	2,642	100	1	33	46	9	1	9
大	977	100	1	37	45	10	4	3
中	899	100	1	32	48	9	2	8
小	766	100	1	29	46	9	1	14

適当と思う子どもの数は3人が最も多く、次いで2人が多く8.0%の人が2人又は3人が適当と思つている。小規模のほうがやや3人へのかたよりが大きい。4人以上をのぞむものは1.0%である。

49表 家族計画実行状況

50才未満の婦人の総数		実行している		実行していない	不明
実数	%				
2,483	100	61		31	8

50才未満の調査対象者について家族計画実行状況をみると、実行していると答えた人が61%、していないと答えた人が31%で約6割が家族計画を行なつている。

Ⅳ 育 児 ・ 教 育

1. 子どもの在学状況

50表 子どもの在学状況

	在学している 子どもの総数		公 立				私 立				不明
	実数	%	計	ひる	よる	不明	計	ひる	よる	不明	
計	2,324	100	85	84	1	0	11	11	0	0	4
大学(短大を含む)	69	100	40	36	—	4	58	49	7	2	2
高等学校	324	100	71	65	4	1	29	29	0	0	—
中学校	709	100	90	90	—	—	7	7	—	—	3
小学校	1,144	100	92	92	—	—	3	3	—	—	5
幼稚園	64	100	41	41	—	—	57	57	—	—	3
その他	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

子どもの在学状況をみると、約1世帯に1人の割合で在学する子どもがいる。これを学校種別にみると、小学生は2世帯に1人、中学生4世帯に1人、高校生8世帯に1人、大学生38世帯に1人、幼稚園児41世帯に1人の割合である。

公私立別にみると、大学では私立学校の在学者が58%で、高等学校では私立の割合は29%、中学校7%、小学校3%で、全国平均の私立校在学者(昭和37年文部省調)大学67%、高校29%、中学校4%、小学校0.4%に比べると、大学ではやや低い、中、小学校ではやや高い。夜間部在学するものは大学生の7%、高校生の4%で全国平均(大学13%、高校14%)と比べて低い。

2. 教 育 費

51表 子どもの1カ月の1人あたりの教育費

		計		500円未満	500~1,000	1,000~2,000	2,000~3,000	3,000~4,000	4,000~5,000	5,000~7,000	7,000~10,000	10,000円以上	不明
		実数	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
大学(短大を含む)	計	2,324	100	5	26	40	13	6	2	2	1	1	4
	公立	69	100	—	—	—	7	17	7	9	19	33	7
	私立	28	100	—	—	—	7	29	11	3	11	36	8
	不明	26	100	—	—	—	4	24	12	4	12	40	4
	公立	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	私立	3	100	—	—	—	33	67	—	—	—	—	—
	不明	40	100	—	—	—	8	10	3	10	25	33	10
	公立	34	100	—	—	—	3	9	3	9	30	38	9
	私立	5	100	—	—	—	40	20	—	20	—	—	20
	不明	1	100	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—
高等学校	計	324	100	1	1	11	32	29	13	9	2	—	2
	公立	229	100	1	2	16	40	31	7	4	—	—	1
	私立	211	100	1	2	12	39	33	7	4	—	—	2
	不明	14	100	—	7	57	36	—	—	—	—	—	—
	公立	4	100	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—
	私立	95	100	—	—	3	11	27	27	21	7	1	3
	不明	93	100	—	—	3	11	27	27	20	8	1	3
	公立	1	100	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—
	私立	1	100	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—
	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中学校	計	709	100	5	25	46	14	3	1	1	0	0	4
	公立	636	100	5	26	48	14	2	1	1	—	—	4
	私立	48	100	—	10	23	15	19	13	10	4	2	4
	不明	25	100	8	32	28	16	—	—	—	—	—	16
小学校	計	1,144	100	8	35	46	6	1	—	0	—	0	4
	公立	1,052	100	8	36	47	6	1	—	—	—	—	3
	私立	40	100	5	23	50	8	2	—	5	—	—	8
	不明	52	100	10	29	31	—	—	—	—	—	2	9
幼稚園	計	64	100	3	20	53	20	—	2	—	—	—	2
	公立	26	100	4	31	50	12	—	—	—	—	—	4
	私立	36	100	3	14	53	28	—	3	—	—	—	—
	不明	2	100	—	—	100	—	—	—				

こゝで学校教育費というのは、授業料、給食費、交通費、教科書、参考書、文具類代を合わせたものであるが、子ども1人あたりの1カ月の学校教育費は総合的にみると9割までが3,000円未満で中位は1,000～2,000円である。学校種類別にみると大学では2,000円から10,000円以上まであり、中位は7,000円～10,000円、7,000円以上は公立では47%、私立では58%、5,000～7,000円かかるものを公立5%、私立10%で私立の場合の教育費がやや高い。

高等学校では、最も高い割合を占めるのは2,000～3,000円の層で32%、次いで3,000～4,000円29%で、2,000～4,000円が60%を占める。公立では中位が2,000～3,000円であるのに対して、私立では4,000～6,000円が中位になっている。

中学校では約半数の46%が1,000～2,000円、25%が500～1,000円で、80%が500～2,000円である。しかし公立では大部分が3,000円程度までなのに対して、私立では約半数が3,000円以上である。

小学校では1,000～2,000円が46%、500～1,000円が35%で、80%が500～2,000円となっている。私立は公立よりやや高くなっている。

幼稚園でも、50%余が1,000～2,000円で、教育費は、小、中学校とあまり変わらない。

育英資金をえている子どものある世帯は全体の約1%である。生産労働者世帯より、職員等の世帯にやや多い。

52表 1カ月1人あたりの家庭教育費

	計		500円未満	500～1,000円	1,000～2,000円	2,000～3,000円	3,000～5,000円	5,000円以上	不明
	実数	%							
計	745	100	33	30	20	5	2	0	1
大 学	3	100	33	33	—	—	—	—	33
高等学校	69	100	35	9	29	1	1	—	25
中 学 校	269	100	22	31	26	9	3	—	9
小 学 校	394	100	41	33	15	4	1	0	7
幼 稚 園	9	100	44	33	—	—	—	—	22

家庭教育費をかけている子どもは在学する子どもの32%にあたる。学校種類別にみると、大学生では4%、高校生21%、中学生38%、小学生32%、幼稚園児14%であり、家庭教育費のかかるのは主として中学生、小学生が多い。

こゝで家庭教育費というのは、家庭教師、学習塾、そろばん塾、けいこ事などの月謝等であるが、この1カ月の1人あたりの額はどの位かをみると、500円未満の層が約1/3を占め、この割合は小学校ではやや高く、中学校ではやや低い。

3 進 学 希 望

53表 子どもに義務教育以上の教育を受けさせたい希望

	回 答 総 数		高 校 まで		短 大 まで		大 学 まで		そ の 他	
	実 数	%	男	女	男	女	男	女	男	女
計	2,498	100	20	55	0	5	56	13	0	1
大 計	1,581	100	26	57	0	2	47	8	0	1
大 職 員 等	917	100	10	51	0	8	70	21	0	1
中 計	911	100	14	52	0	6	64	17	1	2
中 大 計	526	100	18	60	0	2	59	10	1	2
中 大 職 員 等	385	100	8	40	0	12	71	27	1	1
小 計	899	100	19	63	1	4	58	11	1	1
小 中 計	559	100	26	60	1	2	47	7	1	0
小 中 大 職 員 等	340	100	9	69	1	6	75	17	—	1
小 小 計	688	100	29	49	0	3	42	9	0	1
小 小 大 計	496	100	36	52	0	2	35	6	—	1
小 小 大 職 員 等	192	100	13	40	—	6	60	19	1	2

子どもに義務教育以上の教育を受けさせたいと思うかという質問に回答した人のうち、男の子に対しては、大学まではやめてやりたいと思う人が56%、高校まで希望する人は20%である。

女の子に対しては、高校までを希望する人が55%を占め、大学までは13%、短大5%、その他1%である。

一般に職員世帯、大規模事業所ほど子どもに高い教育をのぞむ傾向がつよいが、もつとも希望程度の低い小規模生産労働者でも35%が男の子を大学までやりなと考えている。

4 子ども遊び場とその安全状況

54表 子どものおもな戸外の遊び場所

計	家の庭	道 路	あき地	公 園	校 庭	遊園地	その他	不 明
1,589	%	%	%	%	%	%	%	%
	100	53	16	28	7	10	9	7

注：多答式なので合計100にならない。

55表 子どもの戸外遊び場所の安全の状況

	10才以下の子どもをもつ世帯の総数		安 全	安全でない	不 明
	実 数	%			
計	1,589	100	60%	35%	5%
家の庭	841	100	67	32	1
道 路	257	100	34	64	2
あき地	442	100	64	35	1
公 園	111	100	69	30	1
校 庭	151	100	77	22	1
遊園地	140	100	71	29	0
その他	116	100	59	36	5
不 明	115	100	16	22	62

10才以下の子どものおもな遊び場は、家の庭が最も多く5割強を占め、次いであき地、道路、校庭、遊園地、公園の順になつている。遊び場所のそれぞれについて安全の度合をみると、道路を除いてはどの遊び場所も60～70名までは安全であると答えている。

道路では安全は34%、安全でないと答えたものが64%である。全体としてみると安全な遊び場は60%、安全でないものは35%で、約1/3が安全でない遊び場ということになる。

Ⅷ 文化・教養

1. 新 聞

56表 新聞購読状況

	総 数		とつている	うちわけ		とつていない
	実 数	%		1種類	2種類以上	
計	2,624	100	94%	74%	20%	6%
大	977	100	98	75	23	2
中	881	100	94	76	18	6
小	776	100	89	71	18	11

新聞をとつていると答えた人は94%、そのうち1種類とつているのは74%、2種類以上が20%である。とつていないと答えた人は6%である。小規模ではとつていない世帯が11%

ある。2種類以上とつている世帯は大規模に多い。

2. 雑 誌

57表 雑誌の購読状況

	総 数		買 う	雑 誌 の 種 類							買わない
	実 数	%		週刊	総合	文化	趣味	子ども	婦人	その他	
計	2,603	100	80%	42%	7%	7%	12%	43%	42%	11%	20%
大	977	100	86	43	9	9	13	47	42	13	14
中	860	100	83	44	7	7	12	46	40	12	17
小	766	100	69	37	6	5	9	34	32	6	31

注 答は多答式なので合計100にならない。

雑誌を買っていると答えた人は80%、買わないと答えた人は20%である。買う雑誌の種類は、週刊誌、子ども、婦人雑誌が多く、いずれも4割強の世帯で購読している。大規模ほど雑誌の家庭購入が多い。

3. けいと事

58表 けいと事を知っている家族

	総 数		習っている家族がいる世帯	1世帯あたり(習っている)平均件数
	実 数	%		
計	2,642	100	26%	1.3 件
大	977	100	29	1.5
中	899	100	23	1.3
小	766	100	26	1.0

家族の中で何かけいと事を知っている人のいる世帯は26%で、約4世帯に1の割合で習っている人がいることになる。習っている家族のいる世帯1世帯あたりのけいと事件数は平均1.3件である。

59表-1 習っている人

	けいと事の総件数		子ども	妻	夫	親	その他の家族
	実 数	%					
計	886	100	69%	16%	8%	1%	4%
大	422	100	68	19	9	1	3
中	268	100	66	17	10	2	5
小	196	100	77	14	3	1	5

けいと事を習っている人は、子どもが主でけいと事件数の約70%を占める。次いで妻、夫、その他の家族、親の順になっている。

59表-2 けいと事の種類別習っている人

	計		子ども	妻	夫	親	その他の家族
	実数	%					
計	886		613	156	71	10	36
%		100	69	18	8	1	4
お花	178	20	12	7	0	—	1
お茶	66	8	5	2	—	0	1
舞踊	38	4	3	1	0	0	0
音楽	192	22	19	1	2	—	0
絵画	25	3	3	—	—	—	—
書道	86	10	8	1	1	—	—
和洋裁	75	9	6	2	—	0	1
料理	14	2	1	1	—	—	—
スポーツ	6	1	1	—	0	—	0
その他	20	2	14	4	4	1	1

習っているけいと事は音楽、お花が多く、それぞれ20%を占める。又、お茶、書道、和洋裁もそれぞれ10%前合、他は10%に満たない。子どもの習っているものは音楽、お花といったものが多く、妻本人ではお花が多い。

4. 家族といつしよに楽しむレクリエーション

60表 家族といつしよに楽しむゲーム、スポーツの有無と種類

		計	大	中	小
総数	実数	2,642	977	899	766
	%	100	100	100	100
あ る		% 25	% 31	% 23	% 21
トランプ		9	9	8	6
バドミントン		4	5	5	3
野 球		3	4	3	2
卓 球		1	3	0	1
碁、将棋		3	3	3	5
マージャン		2	2	2	1
バレーボール		1	2	0	1
ゲ ー ム 類		2	2	1	2
かるた花札		2	2	1	2
スキー、スケート		0	1	0	1
釣		1	0	1	1
テ ニ ス		1	0	1	0
ゴ ル フ		0	0	0	0
そ の 他		4	3	7	3
な い		75	69	77	79

注 種類の答は多答式なので合計は「ある」世帯の%と一致しない。

家族がいつしよにゲーム、スポーツを楽しむことがある世帯は全体の25%、ない世帯が75%である。大規模ではあると答えた世帯が多く、31%があると答えている。

いつしよに楽しむゲーム、スポーツの種類は、トランプがもつとも多く、ついでバドミントン、野球、碁、将棋といったものをよくするようである。

61表 レクリエーションに出かけることの有無

	総 数		あ る			な い
	実 数	%	計	たびたび	たまに	
計	2,642	100	63	9	54	37
大	977	100	72	14	58	22
中	899	100	61	6	55	39
小	766	100	56	7	49	44

家族いっしょにレクリエーションに出かけることがある世帯は63%で、全体の $\frac{2}{3}$ 近くは
あることになる。これはゲームやスポーツをいっしょにする世帯よりずっと多い。しかし、た
びたび出かけるのは9%で、50%余はたまに出かける程度である。ここでも規模の大きいほ
ど出かけることは多い。

5. 娯楽用具

62表 娯楽用具保有状況

総 数	実 数 %	計	大	中	小
		2,474 100	942 100	850 100	482 100
バドミントン	34	34	38	34	28
ピンポン	19	19	22	20	16
野球	31	31	33	30	29
テニス	10	10	11	12	4
ボート	37	37	39	38	32
スキー	15	15	14	15	15
スケート	8	8	8	7	8
釣具	47	47	48	47	45
楽器	2	2	2	2	2
ゴルフ	2	2	2	4	1
園芸用具	21	21	23	22	19
トランプ	62	62	67	59	60
マージャン	10	10	14	9	7
百人一首	20	20	24	16	18
碁	16	16	13	19	18
将棋	46	46	51	42	45
花札	24	24	25	23	22
ダイヤモンドゲーム	10	10	12	9	8
その他	0	0	0	0	0

家庭における娯楽用具の保有状況をみると、半数前後の家庭がもっているのはトランプ、釣
具、将棋である。 $\frac{1}{3}$ の家庭がもっているのは、バドミントン、野球、ボールである。そのほかの
ものは1.2割程度であるが、ガン、ゴルフなどはわずかの世帯がもっている。

規模別には大規模の保有率がやや高い品目がかなりあるが、大差はみられない。

6. 文化・レクリエーション施設の利用

63表 過去1年間に主婦の利用した施設

回答総数	実 数 %	計	大	中	小
		1,841 100	759 100	594 100	488 100
図書館	6	6	5	6	7
貸 本	16	16	15	16	18
講演会	23	23	26	22	21
講習会	30	30	30	34	27
展 覧 会	22	22	24	20	21
婦人学級	21	21	20	26	18
各種サークル	5	5	4	6	5
公 園	32	32	30	33	32
スポーツ施設	7	7	7	8	8
そ の 他	7	7	7	8	6

主婦が過去1年間に地域の施設や催しをどの程度利用しているかをみると、約30%が公園
講習会を、20%前後が展覧会、婦人学級、貸本等を利用している。5%前後が図書館、各
種サークル、スポーツ施設を利用している。その他には、公民館、動物園、野外遊園地、児童
センター、公会堂、学校等がある。規模別の傾向はとくにみられない。

このような施設のうち、手近かに利用できるものとして、どんなものがほしいと思うかとい
う質問に対して、回答を出した人は15%ほどであつたが、希望する施設としては図書館がめ
だつて多く回答の $\frac{1}{3}$ をしめ、そのほか公園、読書グループ、集会場、音楽会、スポーツ施設な
どが多くみられる。

7. 家庭での交際

6.4表 家庭での交際

	総 数		あ る	程 度				す る 人						な い
	実 数	%		よくする時々	ごくたまに	不 明		夫	妻	子ども	親	その他		
件	2,642	100	49	3	21	24	1	33	17	14	4	1	51	
大	977	100	55	3	25	27	0	38	20	15	4	1	46	
中	899	100	49	3	23	23	—	33	15	14	5	1	51	
小	766	100	42	3	16	21	1	27	15	12	4	1	58	

注： する人の答は多答式なので合計は「ある」と一致しない。

家に友人、知人等を招いて会などをする人と答えた人は49%である。しかしよくすると答えたのは3%で、時々とごくたまにが大体半数づつとなっている。会などをする人は夫が多く次いで妻、子どもである。

大規模ではすると答えた人がしないを上廻り5.5%である。小規模ではある世帯の割合は4.2%とやや低い。

